

令和2年度実施

「ギャンブル等と健康に関する調査」 報告書

令和4年3月

大阪府こころの健康総合センター

目 次

1 調査目的	3
2 調査方法	
(1) 調査対象	3
(2) 調査票の配布および回収時期	3
(3) 調査内容	3
(4) 調査票配布と回収方法	4
3 回収率および無効回答の定義	
(1) 回答必須項目の設定	4
(2) 回答ミスの取り扱い	4
4 年齢調整方法	5
5 分析方法	5
6 調査結果の考察にかかる検討会議	5
7 調査結果	
7.1 対象者の基本属性・背景情報	
(1) 回答者の性別・年齢	6
(2) 婚姻状況	7
(3) 同居者の種類と同居人数	7
(4) 職業	8
(5) 仕事の種類	9
(6) 学歴	9
(7) 年収	10
7.2 ギャンブル等行動	
(1) ギャンブル等の経験(生涯、過去1年)	11
(2) 経験したギャンブル等の種類(生涯、過去1年)	12
(3) 公営競技: 主な券の購入方法	13
(4) ギャンブル等に費やすお金	14
(5) ギャンブル等開始年齢	16
(6) ギャンブル等に関する相談先	18
(7) 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響	19
7.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計	
(1) SOGS(South Oaks Gambling Screen)による割合の推計	22
(2) PGSI(The Problem Gambling Severity Index)による割合の推計	24
7.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル等行動	
(1) SOGS5点以上- 過去1年間で経験したギャンブル等の種類(男女別)	25
(2) 公営競技: 主な券の購入方法(SOGS5点以上5点未満の比較)	26
(3) SOGS5点以上- 過去1年間で1カ月あたりにギャンブル等に費やす金額(男女別)	27
(4) SOGS5点以上- 過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブル等の種類(男女別)	28

7.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル等関連問題」	
(1)ギャンブル等問題と抑うつ、不安との関連	29
(2)ギャンブル等問題と希死念慮・自殺企図との関連	30
(3)ギャンブル等問題と喫煙の関連	32
(4)ギャンブル等問題と飲酒問題との関連	33
(5)ギャンブル等問題と小児期逆境体験との関連	34
(6)ギャンブル等問題と子育ての負担感との関連	35
7.6 ギャンブル等依存症対策とギャンブル等依存症に関する認識および新型コロナの影響	
(1)ギャンブル等依存症対策の認知度	37
(2)依存症などの疾患に対する考え方	38
(3)新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル等	39
8 調査結果のまとめ	40
9 調査結果の考察	42
おわりに	46
巻末資料	

この報告書では、「ギャンブル等」および「ギャンブル等依存症」という用語を下記の意味で用いる。

「ギャンブル等」とは…金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりを行う行為である。日本国内における競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブルのほか、海外のギャンブル(カジノ、ブックメーカー等)や、違法ギャンブル(裏カジノ、賭け麻雀等)などが含まれる。パチンコ・パチスロも含む。

なお、本調査における具体的なギャンブル等の種類は、あらかじめ調査票にリストとして提示した上で、ギャンブル等に関連する質問を行った。下記に調査票より抜粋したギャンブル等の種類のリストを示す。

この調査では、下の(ア)～(シ)の種目をギャンブル等とした。

- (ア) パチンコ
- (イ) パチスロ
- (ウ) 競馬
- (エ) 競輪
- (オ) 競艇
- (カ) オートレース
- (キ) 宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)
- (ク) サッカーくじ
- (ケ) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
- (コ) インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪、競艇、オートレースを除く)
- (サ) 海外のカジノ
- (シ) その他のギャンブル

「ギャンブル等依存症」とは…「ギャンブル等依存症対策基本法(以下、「基本法」という。)第2条において、ギャンブル等依存症とは、「ギャンブル等(法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為をいう。)にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態」と定義している。本報告書では、基本法第2条に定める「ギャンブル等依存症」と、医学的疾患概念である「病的賭博(ICD10)」、「ギャンブル障害(DSM-5)」を同義として扱うこととする。

1 調査目的

この調査は、令和2年3月に策定された「大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づいて、大阪府におけるギャンブル等依存症に関する実態を把握し、今後の大阪府におけるギャンブル等依存症対策を考えるための資料とすることを目的として実施した。

2 調査方法

(1) 調査対象

調査対象者は、大阪府の市区町村72地点に在住する満18歳以上の者から、層化二段無作為抽出法を用いて5,000人を抽出した。

(2) 調査票の配布および回収時期

令和3年2月1日～令和3年2月28日

(3) 調査内容

調査票名:「ギャンブル等と健康に関する調査」

調査項目

① 基本属性・背景情報

性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業、学歴、年収等

② ギャンブル等行動

- ・ 生涯・過去1年間のギャンブル等経験の有無
- ・ 生涯・過去1年間に経験したギャンブル等の種類、頻度、ギャンブル等に使う金額等

③ ギャンブル等関連問題

- ・ 借金に関する質問
- ・ 子育ての負担感、小児期逆境体験
- ・ 希死念慮・自殺企図の有無
- ・ 抑うつ・不安のスクリーニングテスト(Kessler6: K6)

④ ギャンブル障害のスクリーニングテスト

- ・ SOGS、PGSI、NODS-CLIP

<本調査で用いたギャンブル障害のスクリーニングテストの概要>

◆ SOGS (South Oaks Gambling Screen)

アメリカのサウスオクス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテストである。原版の質問数は16問だが、点数にはならない質問が4問含まれている。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されており、わが国では、2008年、2013年、2017年の全国調査で用いられた。得点範囲は0点～20点で、本報告書では、SOGS 合計得点が5点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。なお、3～4点の者は「ギャンブル等依存に至るおそれがある者」とされている。

◆ PGSI (The Problem Gambling Severity Index)

9項目からなる自記式のスクリーニングテストで、地域住民を対象とした疫学調査で用いることを目的に開発された。得点範囲は0点～27点で、本報告書では、PGSIで8点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。なお、1～2点の者は「低リスクギャンブラー」、3～7点の者は「中等度問題ギャンブラー」とされている。

◆ NODS-CLIP ※ NODS (The NORC DSM- IV Screen for Gambling Problems) の簡易版

「コントロールの喪失」、「うそ」、「没頭」に関する3項目で構成され、DSM- IVの診断基準を基に開発されたギャンブル障害のスクリーニングテストであるNODSの短縮版である。いずれか1つ以上の項目に該当した場合に、ギャンブル障害のためのより詳しいスクリーニングテストを実施することが推奨される。

※ NODS-CLIP は、本報告書における結果掲載は割愛した。【調査票における質問 19、20、21 が該当】

⑤クロスアディクション

- ・ ギャンブル等問題と喫煙・アルコール問題(AUDIT-C)との関連

⑥その他

- ・ ギャンブル等依存症対策の認知度
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴うギャンブル等行動の変化
- ・ 依存症などの疾患に対する考え方
- ・ ギャンブル等問題に関する相談先
- ・ 重要な他者のギャンブル等問題の有無と、重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響 等

(4) 調査票配布と回収方法

調査票は、対象者の住民基本台帳に登録のある居住地宛に、回答案内(Web回答の案内を含む)と調査票、返送用封筒を送付した。

なお、回答方法は、下記いずれかを調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ① 紙の調査票に回答して返送する形式(郵送回答)
- ② インターネット経由でWeb回答する形式(Web回答)

3 回収率および無効回答の定義

総回収数は1,583票(郵送回答:1,130票、Web 回答:453票)、回収率は31.7%であった。有効票は1,552票(郵送回答:1,100票、Web 回答:452票)、有効回答率は31.0%であった。以下の(1)に該当した31票は無効票とした。

(1) 回答必須項目の設定

性別・年齢を回答必須項目とし、これらの項目に「無回答」、「答えたくない」と回答した場合は、無効票とした。

(2) 回答ミスの取り扱い

ア 単一選択設問に複数選択している場合

単一選択すべき設問に、複数選択している場合は、原則不適切回答として集計から除外することとした。ただし、下記の場合は、有効回答として集計対象に含めることとした。

- ・ 例1:「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択している場合、それ以外の選択肢を優先
- ・ 例2: 問4で「一人暮らし」とそれ以外の選択肢を選択している場合、「一人暮らし」を優先

イ 数値を答える質問における異常値

年齢や金額等について、選択肢ではなく数値を回答する設問では、論理的に説明が付かない数値や、社会常識から想定されない数値等の場合は異常値とみなし、集計から除外することとした。

ウ 設問間の矛盾

関連性のある複数の設問間で矛盾する内容の回答をしている場合は、質問ごとに、下記のいずれかの処理を実施することとした。

- ・ 不適切回答として集計の対象外とする。
- ・ どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計対象とする。

4 年齢調整方法

「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」にあたり、本調査で得られたSOGS得点およびPGSI得点の分布について、年齢階級ごとの回答者数の偏りを人口で補正し、「年齢調整後の割合」を算出した。

年齢調整方法は、20歳以上の回答者については、令和元年10月1日現在人口¹を基準として、性別・年齢階級別（5歳区分）、直接法にて年齢調整を実施した。また、18～19歳の回答者は、同様の令和元年10月1日現在人口を基準として、18～19歳を1区分、性別、直接法にて年齢調整を実施した。

5 分析方法

一部の質問結果の解析には、男女差、およびSOGS得点による「ギャンブル等依存が疑われる者」とそうでない者における傾向の違いを検証するために、 χ^2 検定を用いた。

6 調査結果の考察にかかる検討会議

本調査結果の分析及び解釈等について検討し、事務局（大阪府こころの健康総合センター）に助言するための会議を、以下により開催した。

- 会議名：「ギャンブル等と健康に関する調査」結果検討会議
- 開催状況：下表のとおり
- 委員名簿：巻末資料「(1)「ギャンブル等と健康に関する調査」結果検討会議委員名簿（五十音順 敬称略）」参照

回数	開催日	開催方法	議事
第1回	令和4年2月21日（月）	オンライン	(1)「ギャンブル等と健康に関する調査」の結果について (2)その他
第2回	令和4年3月4日（金）	オンライン	(1)「ギャンブル等と健康に関する調査」の結果考察について (2)今後の実態調査について (3)その他

¹ 総務省統計局 人口推計 各年10月1日現在人口 2019年版

7 調査結果

以下、「ギャンブル等と健康に関する調査」調査票の設問ごとに結果の概要を示す。

結果の見方の留意点：質問によって集計対象の総サンプル数が有効票(1,552票)と異なる場合がある。その際は図表の下に集計したサンプル数や除外理由を示した。また、質問には、調査対象者全員に尋ねる質問と、選んだ選択肢によって一部の該当者のみ答える質問がある。

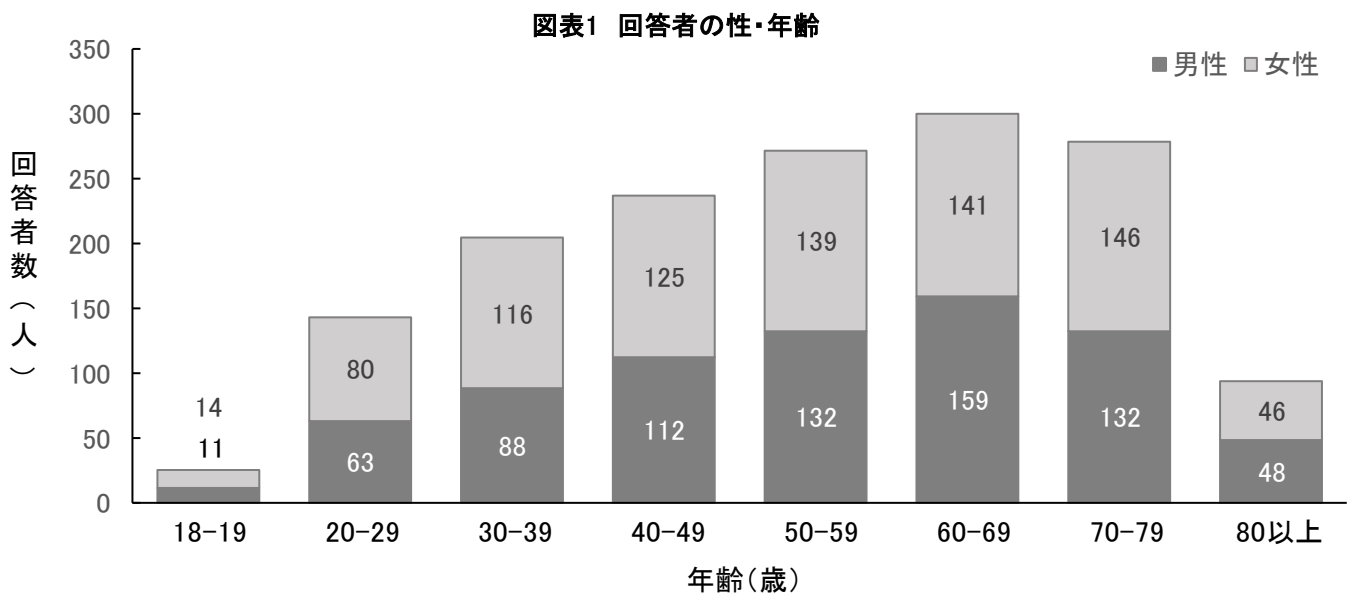
7.1 対象者の基本属性・背景情報

(1) 回答者の性別・年齢

【問1】 あなたの性別を教えてください。(単一選択)

【問2】 あなたの年齢を教えてください。(単一選択)

男性が745名(48.0%)、女性が807名(52.0%)で、男性の平均年齢は55.2歳(標準偏差17.6歳)、女性の平均年齢は53.6歳(標準偏差18.1歳)であった。総務省統計局人口推計令和元年10月1日人口²より算出した性別人口比、年齢階級別人口比と比べて50～70歳代の分布が多かった。(図表1)



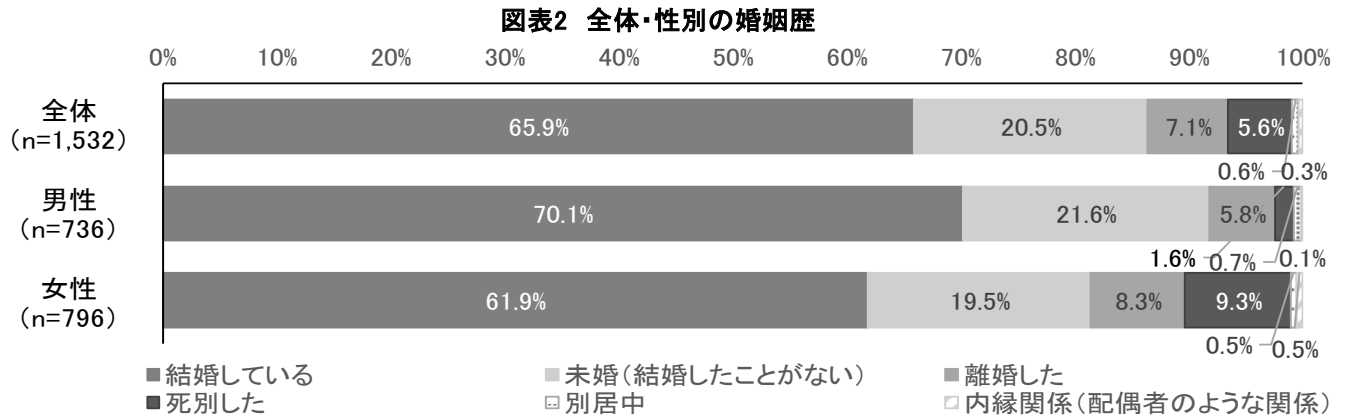
² 総務省統計局人口推計各年10月1日現在人口2019年版

(2) 婚姻状況

【問3】【婚姻歴】 あなたは現在、結婚されていますか。

あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(単一選択)

全体の65.9%が「結婚している」で最も多く、「未婚」は20.5%、「離婚した」は7.1%であった。(図表2)



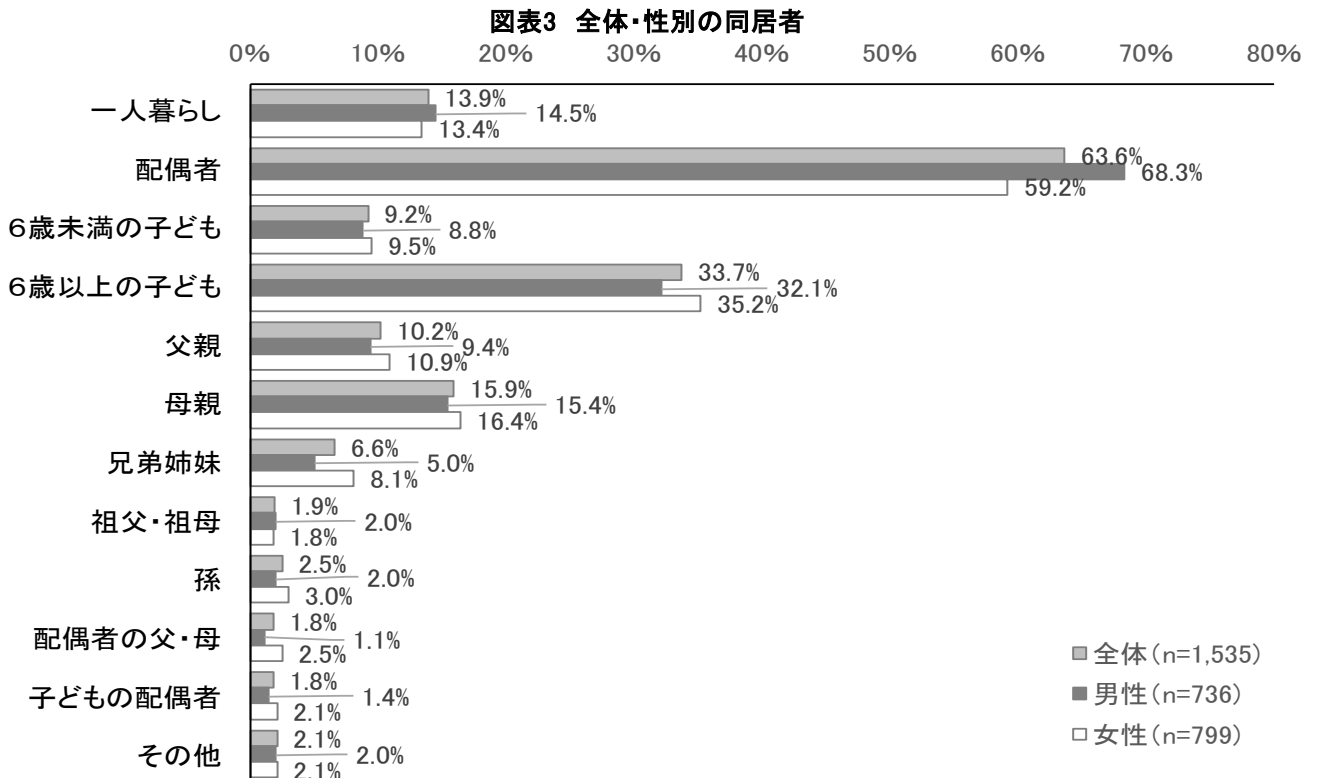
※問3 集計から除外: 無回答(n=3)、答えたくない(n=17)

(3) 同居者の種類と同居人数

【問4】【同居者】 あなたは現在、だれと住んでいますか。(複数選択)

配偶者(63.6%)や6歳以上の子ども(33.7%)と同居している者が多く、一人暮らしは全体の13.9%であった。

(図表3)



※問4 集計から除外: 無回答(n=2)、答えたくない(n=15)

【問5】【同居人数】 現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。

同居人数について、1人(14.0%)、2人(35.0%)、3人(23.0%)、4人(18.3%)であった。(図表4)

参考値:直近の国勢調査による一般世帯の世帯人員の割合³は、1人(37.5%)、2人(27.8%)、3人(16.6%)、4人(13.0%)、5人(3.9%)、6人(0.9%)、7人以上(0.3%)であった。

図表4 同居人数

同居人数(本人含む)	男性	女性	全体
1人	106 (14.3%)	109 (13.7%)	215 (14.0%)
2人	264 (35.7%)	274 (34.3%)	538 (35.0%)
3人	164 (22.2%)	189 (23.7%)	353 (23.0%)
4人	135 (18.3%)	147 (18.4%)	282 (18.3%)
5人	48 (6.5%)	56 (7.0%)	104 (6.8%)
6人	17 (2.3%)	18 (2.3%)	35 (2.3%)
7人	3 (0.4%)	4 (0.5%)	7 (0.5%)
8人	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)
9人	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
10人以上	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
計	739 (100.0%)	798 (100.0%)	1,537 (100.0%)

※問5 集計から除外:設問内矛盾(n=2)(0人と回答)、無回答(n=13)

(4)職業

【問6】【職業】 現在のあなたの職業を教えてください。(単一選択)

男性の就業者では「正社員・正職員」43.5%、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」13.6%、「自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)」13.2%の順で回答した割合が高かった。非就業者では「無職(退職者、今後就業予定のない者)」が21.4%であった。女性の就業者では、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」25.3%、「正社員・正職員」20.5%であった。「専業主婦」は31.5%であった。(図表5)

図表5 職業

職業	男性	女性	全体
勤め(正社員・正職員)	324 (43.5%)	165 (20.5%)	489 (31.6%)
勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	101 (13.6%)	203 (25.3%)	304 (19.7%)
家事専業(専業主婦・専業主夫)	2 (0.3%)	253 (31.5%)	255 (16.5%)
無職(退職、今後就業予定はない)	159 (21.4%)	71 (8.8%)	230 (14.9%)
自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	98 (13.2%)	52 (6.5%)	150 (9.7%)
学生	27 (3.6%)	28 (3.5%)	55 (3.6%)
無職(求職中、失業中、進路未定を含む)	25 (3.4%)	24 (3.0%)	49 (3.2%)
その他	8 (1.1%)	7 (0.9%)	15 (1.0%)
計	744 (100.0%)	803 (100.0%)	1,547 (100.0%)

※問6 集計から除外:無回答(n=5)

³ 「平成27年国勢調査結果」(総務省統計局)

(5) 仕事の種類

【問8】【仕事の種類】 あなたはどのような種類の仕事をしていますか。(単一選択)

就業者における職種は、男性は「専門・技術職」22.3%、「管理職」16.4%、「生産現場・技能職」16.0%の順で割合が高かった。女性では「事務職」28.5%、「専門・技術職」25.8%、「サービス職」22.0%の順で割合が高かった。

(図表6)

図表6 仕事の種類

仕事の種類	男性	女性	全体
専門・技術職	117 (22.3%)	107 (25.8%)	224 (23.9%)
事務職	61 (11.6%)	118 (28.5%)	179 (19.1%)
サービス職	54 (10.3%)	91 (22.0%)	145 (15.5%)
販売職	47 (9.0%)	53 (12.8%)	100 (10.7%)
管理職	86 (16.4%)	13 (3.1%)	99 (10.6%)
生産現場・技能職	84 (16.0%)	15 (3.6%)	99 (10.6%)
運輸・保安職	62 (11.8%)	7 (1.7%)	69 (7.4%)
農・林・漁業	1 (0.2%)	3 (0.7%)	4 (0.4%)
その他	12 (2.3%)	7 (1.7%)	19 (2.0%)
計	524 (100.0%)	414 (100.0%)	938 (100.0%)

※問8 集計から除外:無回答(n=20)

(6) 学歴

【問7】【最終学歴】 あなたの最終学歴を教えてください。(単一選択)

男性では「大学卒業」40.5%、女性では「高校・高専卒業」31.2%と回答した割合が高かった。(図表7)

図表7 最終学歴

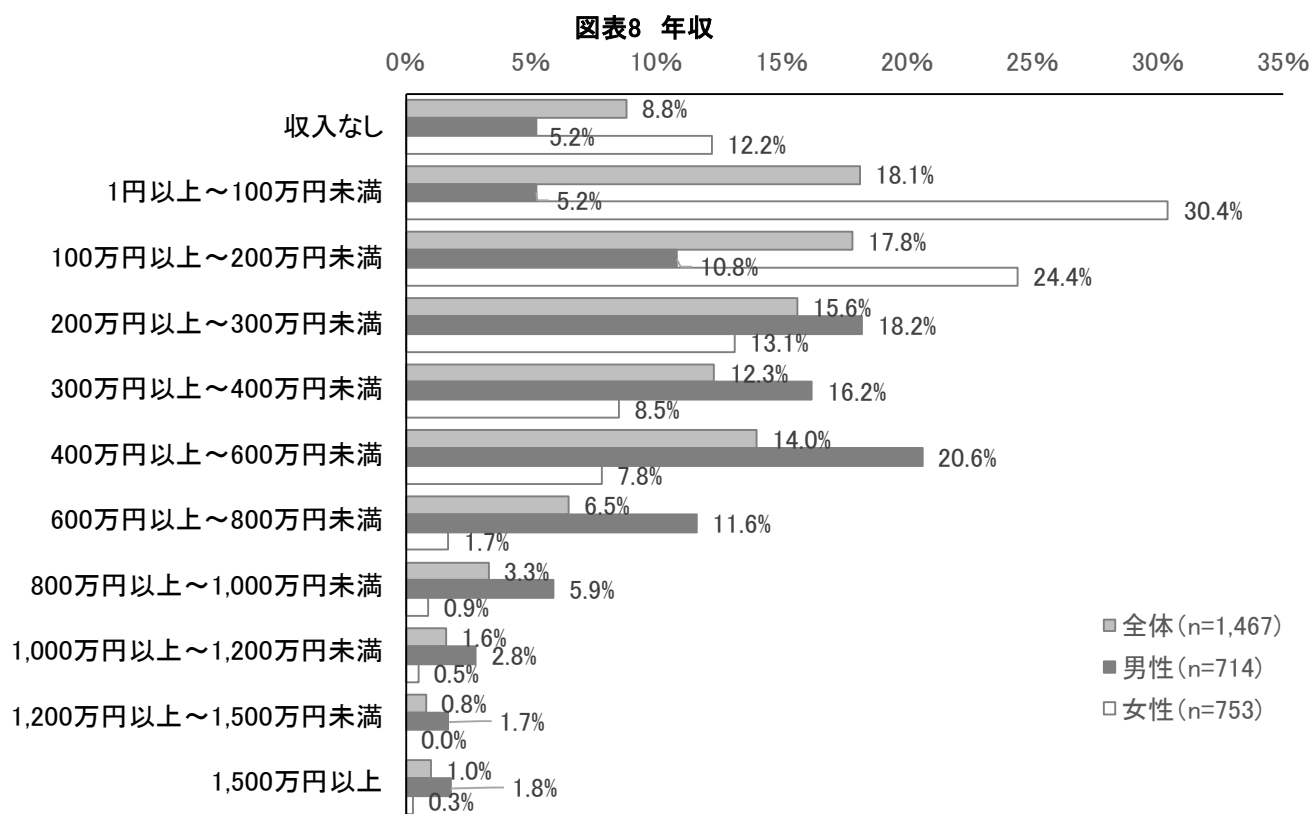
最終学歴	男性	女性	全体
中学校卒業	63 (8.5%)	61 (7.6%)	124 (8.0%)
高校・高専中退	43 (5.8%)	37 (4.6%)	80 (5.2%)
高校・高専卒業	231 (31.1%)	251 (31.2%)	482 (31.2%)
短大・専門学校中退	7 (0.9%)	15 (1.9%)	22 (1.4%)
短大・専門学校卒業	56 (7.5%)	232 (28.9%)	288 (18.6%)
大学中退	14 (1.9%)	7 (0.9%)	21 (1.4%)
大学卒業	301 (40.5%)	189 (23.5%)	490 (31.7%)
大学院中退	2 (0.3%)	1 (0.1%)	3 (0.2%)
大学院修了	26 (3.5%)	10 (1.2%)	36 (2.3%)
その他	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)
計	743 (100.0%)	804 (100.0%)	1,547 (100.0%)

※問7 集計から除外:無回答(n=5)

(7) 年収

【問11】【税込み年収】 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ全体額でお答えください。(単一選択)

男性では「400万円以上～600万円未満」20.6%、女性では「1円以上～100万円未満」30.4%と回答した割合が高かった。(図表8)



※問11 集計から除外:無回答(n=44)、わからない(n=41)

7.2 ギャンブル等行動

(1)ギャンブル等の経験(生涯、過去1年)

【問12】あなたはこれまでにギャンブル等をしたことがありますか。(複数選択)

ギャンブル等を生涯において経験したことがあると回答した割合(生涯ギャンブル等経験あり)は、全体の71.0%(男性の82.4%、女性の60.5%)であった。過去1年間にギャンブル等を経験した割合は、全体の32.7%(男性の45.0%、女性の21.4%)であった(図表9・図表10)。年代別で見ると、生涯ギャンブル等経験率が高いのは、40～49歳(83.5%)、50～59歳(82.7%)であった。さらに、年代別の過去1年でのギャンブル等経験率が最も高かったのは、50～59歳(43.2%)であった(図表11)。

図表9 ギャンブル等経験の有無(生涯、過去1年)

生涯ギャンブル等経験なし	生涯ギャンブル等経験あり	
	450人 (29.0%)	1,102人 (71.0%)
過去1年ギャンブル等経験あり		過去1年ギャンブル等経験なし
508人 (32.7%)		594人 (38.3%)

※【問12】に無回答の者(n=47)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※(%)はn=1,552における割合

図表10 男女別ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)

	生涯ギャンブル等経験あり	過去1年ギャンブル等経験あり
男性 (n=745)	614人 (82.4%)	335人 (45.0%)
女性 (n=807)	488人 (60.5%)	173人 (21.4%)
全体 (n=1,552)	1,102人 (71.0%)	508人 (32.7%)

※【問12】に無回答の者(n=47)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※(%)はn=1,552における割合

図表11 年代別ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)

	生涯ギャンブル等経験あり	過去1年ギャンブル等経験あり
18-19歳 (n=25)	3人 (12.0%)	2人 (8.0%)
20-29歳 (n=143)	74人 (51.7%)	34人 (23.8%)
30-39歳 (n=204)	147人 (72.1%)	70人 (34.3%)
40-49歳 (n=237)	198人 (83.5%)	94人 (39.7%)
50-59歳 (n=271)	224人 (82.7%)	117人 (43.2%)
60-69歳 (n=300)	232人 (77.3%)	109人 (36.3%)
70-79歳 (n=278)	176人 (63.3%)	63人 (22.7%)
80歳以上 (n=94)	48人 (51.1%)	19人 (20.2%)
全体 (n=1,552)	1,102人 (71.0%)	508人 (32.7%)

※【問12】に無回答の者(n=47)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※(%)は、各年代の有効票に占める割合

(2) 経験したギャンブル等の種類（生涯、過去1年）

【問13】 【問12】で○をつけたギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。

(各項目単一選択)

【経験したギャンブル等の種類(生涯、過去1年)と過去1年間の実施頻度】

生涯で経験したギャンブル等の種類は、「宝くじ(ロト・ナンバーズ等を含む)」60.5%、「パチンコ」51.2%、「競馬」33.2%、「パチスロ」19.5%の順で割合が高かった。

(%は有効票全体n=1,505に占める割合)

各種ギャンブル等のうち、「過去1年間に経験した」と回答した人数が多いのは、「宝くじ(ロト・ナンバーズ等を含む)」(n=365)、「競馬」(n=119)、「パチンコ」(n=113)であった。

なお、各種ギャンブル等について、生涯に1度以上経験があると回答した者が、過去1年間に当該ギャンブル等を実施している割合を算出したところ、「インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪等を除く)」62.9%、宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)40.1%、「サッカーくじ」26.4%の順で高かった。

また、ギャンブル等の種類ごとに、過去1年間における実施頻度を尋ねたところ、週1回以上実施したと回答した人数が多いのは、「宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)」(n=36)、「パチンコ」(n=32)、「競馬」(n=28)、「パチスロ」(n=12)であった。(図表12)

図表12 経験したギャンブル等の種類(生涯と過去1年間)と過去1年間の頻度

ギャンブル等の種類	各種ギャンブル等の生涯における経験と過去1年間の経験の有無 【単位:人数(%)】				過去1年間にギャンブル等経験がある者におけるギャンブル等実施頻度 【単位:人数】	
	生涯経験あり (全体(1,505名)に占める 人数と割合)	過去1年間の経験 (生涯経験ある者における割合)			週1回 未満	週1回 以上
		経験あり	経験なし	無回答		
パチンコ	771 (51.2%)	113 (14.7%)	634 (82.2%)	24 (3.1%)	81	32
パチスロ	293 (19.5%)	57 (19.5%)	227 (77.5%)	9 (3.1%)	45	12
競馬	499 (33.2%)	119 (23.8%)	364 (72.9%)	16 (3.2%)	91	28
競輪	49 (3.3%)	3 (6.1%)	43 (87.8%)	3 (6.1%)	3	0
競艇(ボートレース)	113 (7.5%)	13 (11.5%)	94 (83.2%)	6 (5.3%)	11	2
オートレース	13 (0.9%)	2 (15.4%)	8 (61.5%)	3 (23.1%)	2	0
宝くじ (ロト・ナンバーズ等含む)	911 (60.5%)	365 (40.1%)	512 (56.2%)	34 (3.7%)	329	36
サッカーくじ	110 (7.3%)	29 (26.4%)	76 (69.1%)	5 (4.5%)	22	7
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	95 (6.3%)	24 (25.3%)	65 (68.4%)	6 (6.3%)	15	9
インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪等を除く)	62 (4.1%)	39 (62.9%)	20 (32.3%)	3 (4.8%)	24	15
海外のカジノ	125 (8.3%)	1 (0.8%)	119 (95.2%)	5 (4.0%)	1	0
その他のギャンブル	15 (1.0%)	2 (13.3%)	11 (73.3%)	2 (13.3%)	2	0
上記のいずれもしたことはない	403 (26.8%)					

※集計から除外:問12無回答、問13無回答(n=47)

(3) 公営競技: 主な券の購入方法

**【問14】 【問12】で競馬、競輪、競艇、オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。
主にどこで券を購入しますか。(競技ごとに単一選択)**

【問13】で競馬、競輪、競艇、オートレースの経験が過去1年間に「週1回未満」または「週1回以上」と回答した者を対象に集計した。

競馬では、主な券の購入場所として「オンライン」が最も多く(53.4%)、「ギャンブル場/ 場外とオンラインの両方」と合わせると、75.4%がオンライン購入を利用していた。

競輪では、「ギャンブル場/ 場外売り場」で券を購入する者が最も多く(66.7%)、33.3%がオンライン購入を利用していた。

競艇では、「オンライン」で券を購入する者が最も多く(46.2%)、「ギャンブル場/ 場外とオンラインの両方」と合わせると、69.2%がオンライン購入を利用していた。

オートレースでは、全員がオンライン購入を利用していた。(図表13)

図表13 公営競技の主な券の購入方法

	ギャンブル場/ 場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場/場外と オンラインの両方	合計
競馬	29 (24.6%)	63 (53.4%)	26 (22.0%)	118
競輪	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	3
競艇	4 (30.8%)	6 (46.2%)	3 (23.1%)	13
オートレース	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2

※コロナ感染拡大が公営競技の券の購入場所に及ぼす影響を考慮し、【問14】は生涯における券の購入場所を尋ねる質問であったが、図表13では、過去1年間に当該公営競技を経験した者に限定して集計。

※問14に無回答は集計から除外: 競馬(n=1)

(4)ギャンブル等に費やすお金

【過去1年間で最もお金を使ったギャンブル等の種類】

【問15】 過去1年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。(単一選択)

過去1年間にギャンブル等の経験がある者の中で、最もお金を使ったギャンブル等の種類は、宝くじ(50.1%)が最も多く、次いでパチンコ(19.2%)であった。(図表14)

図表14 最もお金を使ったギャンブル等の種類

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
パチンコ	89 (24.0%)	23 (10.8%)	112 (19.2%)
パチスロ	39 (10.5%)	7 (3.3%)	46 (7.9%)
競馬	67 (18.1%)	13 (6.1%)	80 (13.7%)
競輪	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)
競艇(ボートレース)	5 (1.3%)	0 (0.0%)	5 (0.9%)
オートレース	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
宝くじ (ロト・ナンバーズ等含む)	138 (37.2%)	154 (72.6%)	292 (50.1%)
サッカーくじ	5 (1.3%)	1 (0.5%)	6 (1.0%)
証券の信用取引、先物取引市場への 投資、FX	15 (4.0%)	9 (4.2%)	24 (4.1%)
インターネットを使ったギャンブル(競 馬、競輪等を除く)	8 (2.2%)	2 (0.9%)	10 (1.7%)
海外のカジノ	2 (0.5%)	3 (1.4%)	5 (0.9%)
その他のギャンブル	2 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)
計	371 (100.0%)	212 (100.0%)	583 (100.0%)

※問15集計から除外：質問遷移(問12でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、設問内矛盾(n=11)(2つ以上選択)、設問間矛盾(n=25)(問15で選択しているギャンブル等の種類につき問13で回答なし)、無回答(n=67)、選択肢13「過去1年間はギャンブル等を全くしていない」(n=416)

【過去1年間でギャンブル等に使った金額】

【問16】 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。(勝ったお金は含めず回答)

1か月あたりギャンブル等に使用する金額は、0円の回答を含めない場合、男性では1万円以上～5万円未満、女性では1円以上～2千円未満が最も多かった。月に1円以上ギャンブル等にかける場合の金額の中央値は男性が10,000円/月、女性が3,000円/月であった。(図表15・図表16)

図表15 ギャンブル等にかけているお金(1か月あたり、勝ったお金は含めず)

金額	男性	女性	全体
0円	269 (46.0%)	275 (59.9%)	544 (52.1%)
1円以上～2千円未満	30 (5.1%)	69 (15.0%)	99 (9.5%)
2千円以上～5千円未満	52 (8.9%)	39 (8.5%)	91 (8.7%)
5千円以上～1万円未満	34 (5.8%)	27 (5.9%)	61 (5.8%)
1万円以上～5万円未満	135 (23.1%)	42 (9.2%)	177 (17.0%)
5万円以上～10万円未満	27 (4.6%)	3 (0.7%)	30 (2.9%)
10万円以上～50万円未満	34 (5.8%)	4 (0.9%)	38 (3.6%)
50万円以上	4 (0.7%)	0 (0.0%)	4 (0.4%)
計	585 (100.0%)	459 (100.0%)	1,044 (100.0%)

図表16 ギャンブル等にかける金額

単位: 1か月あたりの金額(円)

金額	男性(n=316)	女性(n=184)	全体(n=500)
最小値	200	100	100
第一四分位数	4,000	1,000	3,000
中央値	10,000	3,000	9,000
第三四分位数	30,000	10,000	20,000
最大値	700,000	300,000	700,000

※1か月に1円以上かける回答者での集計

※問16集計から除外: 質問遷移(問12でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、設問間矛盾(n=544)

(問15で過去1年間ギャンブル等をしていない・答えないと回答しているのに問16で1円以上と回答、問15でいずれかのギャンブル等の種類を回答しているのに問16に0円と回答)、無回答(n=58)

(5) ギャンブル等の開始年齢

【問17】 初めてギャンブル等をしたのは何歳の時でしたか。

全体の56.1%（男性51.7%、女性62.0%）が20歳代と回答した。20歳未満の年齢を回答したのは、女性の16.9%に対し、男性は42.6%であり、男性の方が低い年齢でギャンブル等を経験している割合が高かった。（図表17-1）

図表17-1 初めてギャンブル等をするようになった年齢

年齢区分	男性	女性	全体
0～9歳	3 (0.5%)	0 (0.0%)	3 (0.3%)
10～19歳	254 (42.6%)	75 (16.9%)	329 (31.6%)
20～29歳	308 (51.7%)	276 (62.0%)	584 (56.1%)
30～39歳	22 (3.7%)	50 (11.2%)	72 (6.9%)
40～49歳	6 (1.0%)	19 (4.3%)	25 (2.4%)
50～59歳	1 (0.2%)	17 (3.8%)	18 (1.7%)
60～69歳	2 (0.3%)	6 (1.3%)	8 (0.8%)
70～79歳	0 (0.0%)	2 (0.4%)	2 (0.2%)
80歳以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	596 (100.0%)	445 (100.0%)	1,041 (100.0%)

※問17集計から除外：条件分岐（問12でいずれかのギャンブル等を選択していないもの）、無回答（n=61）

初めてギャンブル等をするようになった年齢の中で、特に人数が多かった10～19歳、20～29歳について、各年齢の人数について詳細を見ると、男女とも、20歳が最多（男性30.5%、女性27.6%）で、18歳が次いで多かった（男性29.5%、女性9.7%）。（図表17-2）

図表17-2 初めてギャンブル等をするようになった年齢（10歳代、20歳代の詳細）

	男性	女性	合計
10歳	3 (0.5%)	5 (1.1%)	8 (0.8%)
11歳	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
12歳	1 (0.2%)	1 (0.2%)	2 (0.2%)
13歳	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
14歳	3 (0.5%)	1 (0.2%)	4 (0.4%)
15歳	12 (2.0%)	1 (0.2%)	13 (1.2%)
16歳	17 (2.9%)	4 (0.9%)	21 (2.0%)
17歳	11 (1.8%)	3 (0.7%)	14 (1.3%)
18歳	176 (29.5%)	43 (9.7%)	219 (21.0%)
19歳	29 (4.9%)	17 (3.8%)	46 (4.4%)
20歳	182 (30.5%)	123 (27.6%)	305 (29.3%)
21歳	22 (3.7%)	21 (4.7%)	43 (4.1%)
22歳	29 (4.9%)	33 (7.4%)	62 (6.0%)
23歳	19 (3.2%)	27 (6.1%)	46 (4.4%)
24歳	8 (1.3%)	13 (2.9%)	21 (2.0%)
25歳	31 (5.2%)	34 (7.6%)	65 (6.2%)
26歳	6 (1.0%)	4 (0.9%)	10 (1.0%)
27歳	4 (0.7%)	9 (2.0%)	13 (1.2%)
28歳	6 (1.0%)	10 (2.2%)	16 (1.5%)
29歳	1 (0.2%)	2 (0.4%)	3 (0.3%)
計	562	351	913

※(%)は、全年代的人数(男性596名、女性445名、全体1,041名)に対する割合

【問18】あなたが少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をするようになったのは何歳でしたか。

【問12】で、いずれかのギャンブル等を経験したことがある(生涯ギャンブル等経験あり)と回答した者を対象に、習慣的なギャンブル等を開始した年齢を尋ねた。男性・女性ともに20歳代に習慣的なギャンブル等を開始した割合が最も高かった。(図表18-1)

図表18-1 習慣的にギャンブル等をするようになった年齢

年齢区分	男性		女性		全体	
0～9歳	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
10～19歳	94	(16.0%)	10	(2.2%)	104	(10.1%)
20～29歳	189	(32.2%)	25	(5.6%)	214	(20.7%)
30～39歳	38	(6.5%)	10	(2.2%)	48	(4.6%)
40～49歳	19	(3.2%)	9	(2.0%)	28	(2.7%)
50～59歳	6	(1.0%)	6	(1.3%)	12	(1.2%)
60～69歳	6	(1.0%)	3	(0.7%)	9	(0.9%)
70～79歳	1	(0.2%)	0	(0.0%)	1	(0.1%)
80歳以上	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
小計	353	(60.1%)	63	(14.1%)	416	(40.2%)
※ 習慣的にギャンブル等をしたことはない	234	(39.9%)	384	(85.9%)	618	(59.8%)

※問18集計から除外:条件分岐(問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの)、無回答(n=66)

※(%)は、「習慣的にギャンブル等をしたことはない」を含めた人数(男性587名、女性447名、全体1,034名)に対する割合

習慣的にギャンブル等をするようになった年齢の中で、特に人数が多かった10～19歳、20～29歳について、各年齢の人数について詳細を見ると、20歳が最多(全体10.2%)で、18歳が次いで多かった(全体7.4%)。(図表18-2)

図表18-2 習慣的にギャンブル等をするようになった年齢(10歳代・20歳代の詳細)

	男性		女性		合計	
10歳	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
11歳	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
12歳	1	(0.2%)	0	(0.0%)	1	(0.1%)
13歳	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
14歳	1	(0.2%)	0	(0.0%)	1	(0.1%)
15歳	2	(0.3%)	0	(0.0%)	2	(0.2%)
16歳	3	(0.5%)	0	(0.0%)	3	(0.3%)
17歳	2	(0.3%)	0	(0.0%)	2	(0.2%)
18歳	69	(11.8%)	7	(1.6%)	76	(7.4%)
19歳	16	(2.7%)	3	(0.7%)	19	(1.8%)
20歳	99	(16.9%)	6	(1.3%)	105	(10.2%)
21歳	10	(1.7%)	1	(0.2%)	11	(1.1%)
22歳	17	(2.9%)	1	(0.2%)	18	(1.7%)
23歳	9	(1.5%)	1	(0.2%)	10	(1.0%)
24歳	6	(1.0%)	2	(0.4%)	8	(0.8%)
25歳	21	(3.6%)	6	(1.3%)	27	(2.6%)
26歳	8	(1.4%)	3	(0.7%)	11	(1.1%)
27歳	8	(1.4%)	2	(0.4%)	10	(1.0%)
28歳	9	(1.5%)	2	(0.4%)	11	(1.1%)
29歳	2	(0.3%)	1	(0.2%)	3	(0.3%)
計	283		35		318	

※(%)は、「習慣的にギャンブル等をしたことはない」を含めた人数(男性587名、女性447名、全体1,034名)に対する割合

(6)ギャンブル等に関する相談先

【問37】 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブル等のことで、だれか(どこか)に相談したことはありますか。(複数選択)

生涯ギャンブル等経験がある者のうち、自身のギャンブル等問題について、相談経験をたずねたところ、「だれ(どこ)にも相談したことはない」と回答したのは全体の97.4%であった。相談先として最も多かったのは、家族や友人であった。(図表19)

図表19 ギャンブル等での相談経験の有無と相談先

相談先	男性	女性	全体
家族や友人	16 (2.9%)	7 (1.6%)	23 (2.3%)
学校の先生や学生相談窓口	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療機関	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
法律の専門家(弁護士、司法書士等)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)
民間の相談機関(無料電話相談、回復施設)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
自助グループ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
だれ(どこ)にも相談したことはない	534 (96.6%)	424 (98.4%)	958 (97.4%)
計	553 (100.0%)	431 (100.0%)	984 (100.0%)

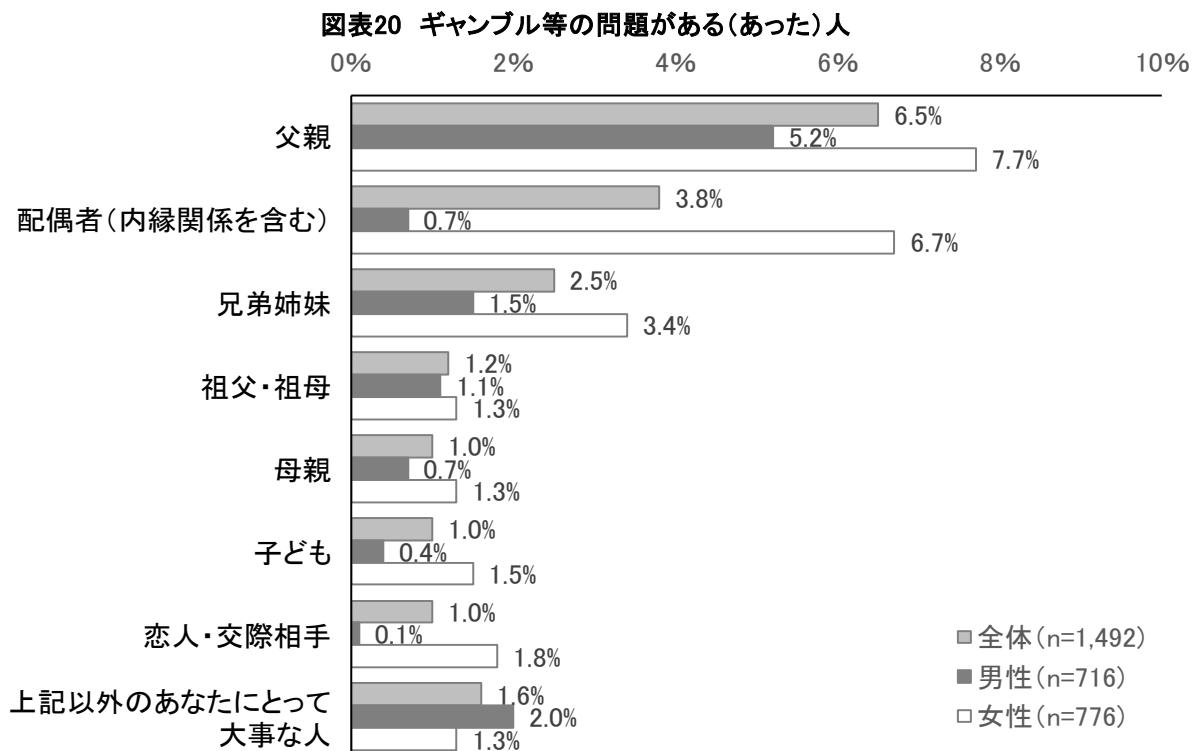
※問37集計から除外:条件分岐(問12でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=118)

(7) 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響

【家族や重要な他者のギャンブル等問題】

【問38】 次にあげる人の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)人はいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。(複数選択)

家族や重要な他者の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)と回答したのは、全体の14.8%(男性:9.8%、女性19.3%)であった。ギャンブル等の問題がある(あった)家族や重要な他者は、男性では「父親」5.2%、「上記以外の大事な人」2.0%、「兄弟姉妹」1.5%の順で割合が高かった。女性では、「父親」7.7%、「配偶者」6.7%、「兄弟姉妹」3.4%の順で割合が高かった。(図表20)



※問38集計から除外: 無回答(n=60)

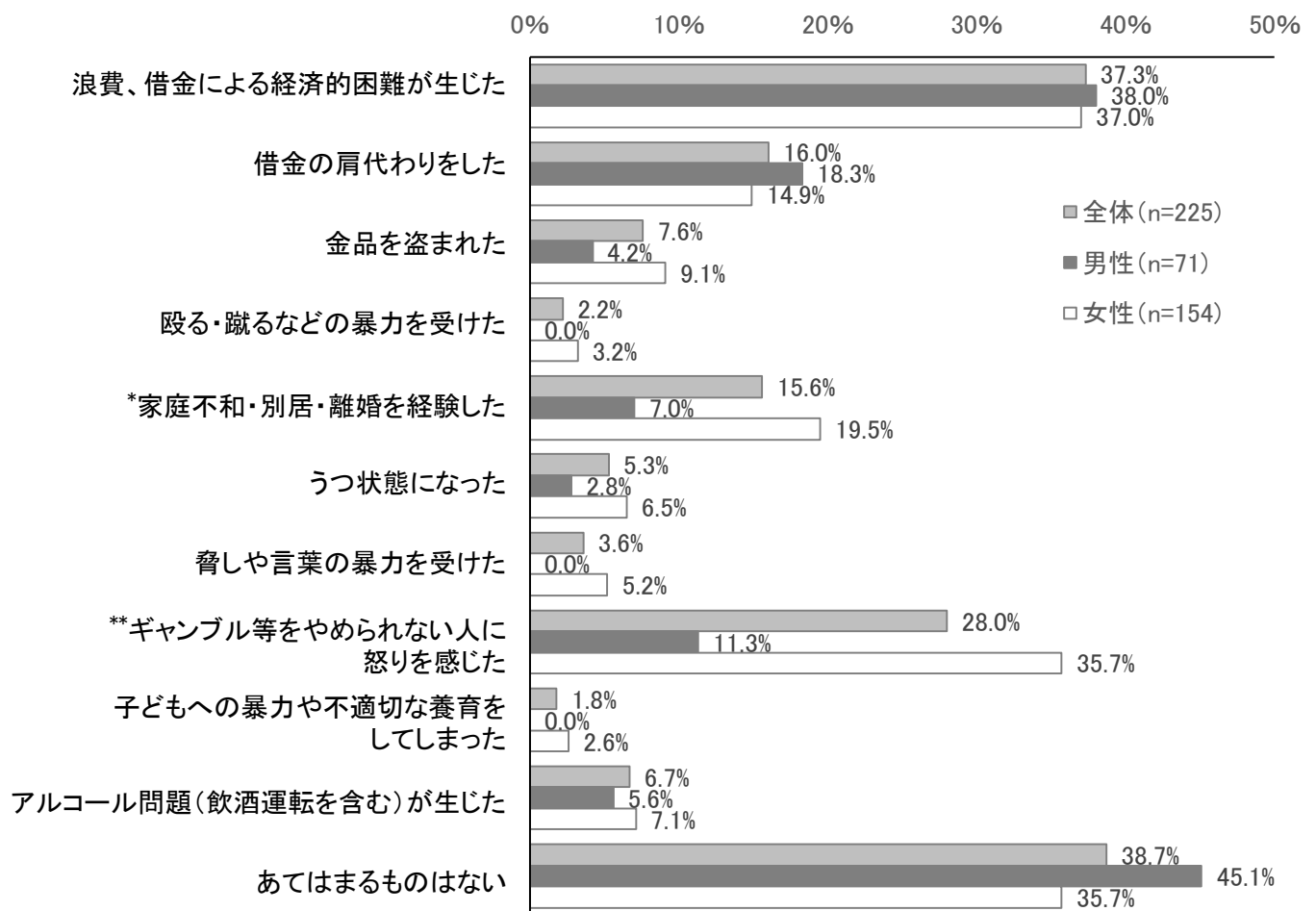
【家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響】

【問39】 あなたは、先ほど【問38】で答えた人のギャンブル等問題から、影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択)

家族や重要な他者にギャンブル等問題がある(あった)と回答した者において、受けた影響として回答が多かったものは、「あてはまるものがない」を除くと、「浪費、借金による経済的困難が生じた」、「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」であった。受けた影響について男女を比較すると、男性より女性の方が「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」「家庭不和・別居・離婚を経験した」と回答した割合が有意に高かった。

($\chi^2(1)=14.406, p<.01$)、($\chi^2(1)=5.723, p<.05$) (図表21)

図表21 家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響



※問38で「いない」、「答えたくない」、「無回答」とした(n=1,323)、および問39における無回答(n=4)を除く、合計n=225を集計対象とした。

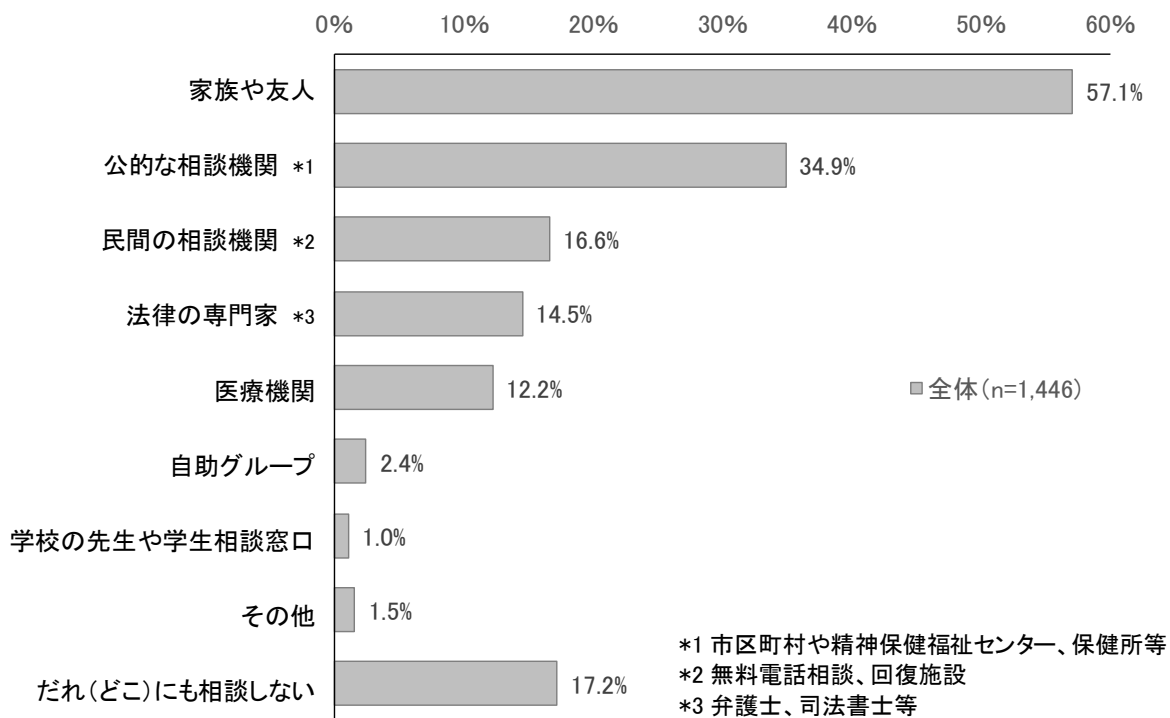
※ χ^2 検定による男女比較で有意差があった項目 **p <.01、*p <.05

【家族や重要な他者のギャンブル等問題と相談先】

【問40】 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブル等のことで困りごとを抱えたら、だれ(どこ)に相談しますか。あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。
(複数選択)

ギャンブル等のことで困った時の相談先としては、「家族や友人」を選択した回答者が最も多く(57.1%)、次いで「公的な相談機関」が34.9%であった。一方、全体の17.2%は「だれ(どこ)にも相談しない」と回答した。(図表22)

図表22 家族や重要な他者のギャンブル等問題と相談先



※問40集計から除外: 無回答(n=106)

7.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

ギャンブル障害のスクリーニングテストとしてSOGS、PGSI(2調査方法参照)の2種類の尺度を用いて、大阪府における「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合を推計した。なお本調査では、「過去1年間にギャンブル等経験がある者」を対象に過去1年間のギャンブルについてスクリーニングテストの得点を集計した。したがって、本調査では過去1年間におけるギャンブル等依存が疑われる者が、どの程度の割合存在しているのかを示す推計値を算出した。

(1) SOGS(South Oaks Gambling Screen)による割合の推計

① SOGS 得点の集計方法

本調査においては【問22～問35】がSOGSの得点項目に該当する。SOGS得点の集計サンプルの概要を図表23に示す。

まず、「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計に際し、調査の回答者をギャンブル等経験の有無からグループに分けて検証した。「過去1年間のギャンブル等経験あり」と回答した508サンプルのうち、SOGS尺度の回答に不備があった52サンプルを除く456サンプルを対象に、SOGS得点を集計した。また、「過去1年間のギャンブル等経験なし」「生涯ギャンブル経験なし」の者のSOGS得点は、0点として取り扱った。

図表23 SOGS 得点集計サンプルの概要

SOGS 得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうち SOGS 該当質問に完答	456	→SOGS 得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし (生涯ギャンブル等経験のない者も含む)	1,044	→SOGS 得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	1,500	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、SOGS尺度(問22～問35)の回答に不備がある者(n=52)は、集計から除外

② SOGS 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本調査では、SOGs得点5点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、SOGs得点5点以上に該当した者は22名(男性21名、女性1名)であった。(図表24)

年齢調整後⁴のSOGs得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者(5点以上)の割合は、全体で1.3%(95%信頼区間⁵:0.8~2.0)で、男性が2.7%(95%信頼区間:1.6~4.2)、女性が0.1%(95%信頼区間:0.0~0.7)であった。(図表25)

図表24 年齢調整前のSOGs 得点分布

SOGs 得点		男性		女性		全体	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
5点未満	0~2点	669	(94.0%)	784	(99.5%)	1,453	(96.9%)
	3~4点	22	(3.1%)	3	(0.4%)	25	(1.7%)
5点以上		21	(2.9%)	1	(0.1%)	22	(1.5%)
全体		712	(100.0%)	788	(100.0%)	1,500	(100.0%)

図表25 年齢調整後のSOGs 得点分布

SOGs 得点				男性		女性		全体	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合
5点未満		人数		688		798		1,486	
		割合		97.3%		99.9%		98.7%	
5点以上		人数		19		1		20	
		割合(95%信頼区間)		2.7%(1.6~4.2)		0.1%(0.0~0.7)		1.3%(0.8~2.0)	
全体		人数		707		799		1,506	
		割合		100.0%		100.0%		100.0%	

⁴ 年齢調整:大阪府の人口における年齢構成と、本調査の回答者における年齢構成の差異の影響を取り除くため、令和元年10月1日現在人口を基準人口として補正し、年齢調整後の割合を算出した。年齢調整の詳細については、本報告書「4年齢調整方法」を参照。

⁵ 95%信頼区間:同じ調査を100回実施した場合、95回はその区間内に真の値が含まれることを意味する。

(2)PGSI(The Problem Gambling Severity Index)による割合の推計

① PGSI 得点の集計方法

本調査における【問36】がPGSI尺度に該当する。PGSI得点の集計サンプルの概要を図表26に示す。

図表26 PGSI 得点集計サンプルの概要

PGSI 得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうち PGSI 該当質問に完答	491	→PGSI 得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし (生涯ギャンブル経験のない者も含む)	1,044	→PGSI 得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	1,535	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、PGSI尺度(問36)の回答に不備がある者(n=17)は、集計から除外

② PGSI 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本調査では、PGSI得点8点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、PGSI得点8点以上に該当した者は12名(男性12名、女性0名)であった。(図表27)

年齢調整後のPGSI得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者(8点以上)の割合は全体で0.7%(95%信頼区間:0.4~1.3)、男性1.7(95%信頼区間:0.8~2.7)、女性0.0%(95%信頼区間:0.0~0.5)であった。(図表28)

図表27 年齢調整前のPGSI 得点分布

		男性		女性		全体	
PGSI 得点	8点 未満	0点	637 (86.9%)	779 (97.1%)	1,416 (92.2%)		
		1~2点	41 (5.6%)	15 (1.9%)	56 (3.6%)		
		3~7点	43 (5.9%)	8 (1.0%)	51 (3.3%)		
	8点以上	12 (1.6%)	0 (0.0%)	12 (0.8%)			
	全体	733 (100.0%)	802 (100.0%)	1,535 (100.0%)			

図表28 PGSI 集計結果(年齢調整後)

		男性		女性		全体	
PGSI 得点	8点 未満	人数	712	811	1,523		
		割合	98.3%	100.0%	99.3%		
	8点 以上	人数	11	0	11		
		割合(95%信頼区間)	1.7%(0.8~2.7)	0.0%(0.0~0.5)	0.7%(0.4~1.3)		
	全体	人数	724	811	1,534		
		割合	100.0%	100.0%	100.0%		

※集計から除外:問36の9項目に1つでも無回答が含まれる回答(n=17)は採点対象外とした。

7.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動

「ギャンブル等依存が疑われる者」(SOGs得点5点以上)におけるギャンブル等行動(経験したギャンブル等の種類、最もお金をつぎ込んだギャンブル等)について集計した。

(1) SOGS 5点以上-過去1年間で経験したギャンブル等の種類(男女別)

【問13】 【問12】で○をつけたギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。

(各項目単一選択)

【過去1年間で経験したギャンブル等の種類(男女別の割合)】

SOGs得点5点以上の者における過去1年間で経験したギャンブル等の種類は、全体でパチンコ(90.9%)が最も多く、次いで競馬(72.7%)が多かった。(図表29)

図表29 SOGS 5点以上-過去1年間で経験したギャンブル等の種類

ギャンブル等の種類	全体 (n=22)
パチンコ	20 (90.9%)
パチスロ	13 (59.1%)
競馬	16 (72.7%)
競輪	3 (13.6%)
競艇(ボートレース)	6 (27.3%)
オートレース	1 (4.5%)
宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	13 (59.1%)
サッカーくじ	3 (13.6%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	2 (9.1%)
インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪などを除く)	1 (4.5%)
海外のカジノ	2 (9.1%)
その他のギャンブル	2 (9.1%)

※集計から除外: 設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答、選択肢1「過去1年間はギャンブル等を全くしていない」

【過去1年間の頻度(SOGs 5点以上(n=22)における割合)】

SOGs得点5点以上の者において、過去1年間で実施したギャンブル等の種類のうち、「週1回以上」の頻度で実施されていた割合が最も高いのは、パチンコ(40.9%)であった。続いて、パチスロ(22.7%)、競馬(18.2%)で割合が高かった。(図表30)

図表30 SOGS 5点以上-過去1年間でギャンブル等をした頻度

単位: 人数(n=22における割合)

ギャンブル等の種類	SOGs 5点以上 (n=22)における頻度		
	週1回未満	週1回以上	合計
パチンコ	7 (31.8%)	9 (40.9%)	16 (72.7%)
パチスロ	5 (22.7%)	5 (22.7%)	10 (45.5%)
競馬	6 (27.3%)	4 (18.2%)	10 (45.5%)
競輪	1 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)
競艇(ボートレース)	3 (13.6%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)
オートレース	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	4 (18.2%)	3 (13.6%)	7 (31.8%)
サッカーくじ	1 (4.5%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪などを除く)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)
海外のカジノ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他のギャンブル	1 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)

(2) 公営競技: 主な券の購入方法(SOGs 5点以上と5点未満の比較)

【問14】 【問12】で競馬、競輪、競艇、オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。

主にどこで券を購入しますか。(競技ごとに単一選択)

【問13】で競馬、競輪、競艇、オートレースの経験が過去1年間に「週1回未満」または「週1回以上」と回答し、かつ、SOGsの該当質問に完答者(SOGs得点を集計した者)を対象に集計した。各公営競技の券の購入方法について、SOGs 5点以上と5点未満で比較したところ、有意差はなかった。(図表31)

図表31 公営競技: 主な券の購入方法(SOGs 5点以上5点未満の比較)

公営競技	SOGs 得点	ギャンブル場/場外 売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場/場外 とオンラインの両方	合計
競馬	5点未満	22 (23.4%)	52 (55.3%)	20 (21.3%)	94 (100.0%)
	5点以上	4 (40.0%)	5 (50.0%)	1 (10.0%)	10 (100.0%)
競輪	5点未満	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
	5点以上	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
競艇	5点未満	1 (11.1%)	5 (55.6%)	3 (33.3%)	9 (100.0%)
	5点以上	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
オートレース	5点未満	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
	5点以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (100.0%)

(3) SOGS 5点以上-過去1年間で1か月あたりにギャンブル等に費やす金額(男女別)

【問16】 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。

(勝ったお金は含めずに回答)

SOGS得点5点以上の者において、1か月あたりギャンブル等に使用する金額は、1万円以上～5万円未満が最も多く、次いで、10万円以上～50万円未満が多くなった。月に1円以上ギャンブル等にかかる場合の金額の中央値は50,000円/月であった。(図表32・図表33)

図表32 SOGS 5点以上-ギャンブル等にかけているお金(1か月あたり、勝ったお金は含めず)

金額	全体
0円	0 (0.0%)
1円以上～2000円未満	0 (0.0%)
2000円以上～5000円未満	0 (0.0%)
5000円以上～10000円未満	0 (0.0%)
1万円以上～5万円未満	8 (42.1%)
5万円以上～10万円未満	3 (15.8%)
10万円以上～50万円未満	7 (36.8%)
50万円以上～100万円未満	1 (5.3%)
100万円以上	0 (0.0%)
全体	19 (100.0%)

図表33 SOGS 5点以上-ギャンブル等にかかる金額

単位: 1か月あたりの金額(円)

金額	全体(n=19)
最小値	10,000
第一四分位数	20,000
中央値	50,000
第三四分位数	125,000
最大値	700,000

※問16集計から除外: 矛盾・不明回答(n=3)

(4) SOGS 5点以上-過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブル等の種類(男女別)

【問15】 過去1年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。(単一選択)

SOGS得点5点以上の者において、最もお金を使ったギャンブル等の種類は、全体でパチンコ(50.0%)が最も多く、次いで、パチスロが多くなった。(図表34)

図表34 SOGS 5点以上-最もお金を使ったギャンブル等の種類

ギャンブルの種類	全体
パチンコ	11 (50.0%)
パチスロ	7 (31.8%)
競馬	2 (9.1%)
競輪	1 (4.5%)
競艇(ボートレース)	0 (0.0%)
オートレース	0 (0.0%)
宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	0 (0.0%)
サッカーくじ	0 (0.0%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	0 (0.0%)
インターネットを使ったギャンブル(競馬、競輪などを除く)	0 (0.0%)
海外のカジノ	0 (0.0%)
その他のギャンブル	1 (4.5%)
全体	22 (100.0%)

7.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル等関連問題」

SOGS 5点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」、5点未満を「ギャンブル等依存のない者」とし、「ギャンブル等関連問題」との関連を検証した。

(1)ギャンブル等問題と抑うつ、不安との関連

ギャンブル等問題と「抑うつ・不安」との関連を検証するため、抑うつ・不安のスクリーニング尺度(K6)を用いた。(図表35)

【問43】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。(それぞれ単一選択)

図表35 < K6 得点の評価方法 >

0～4点	問題なし
5～9点	何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
10～12点	うつ・不安障害が疑われる
13点以上	重度のうつ・不安障害が疑われる

【全体の傾向:抑うつ・不安】

過去1か月の間に「抑うつ・不安」の問題がある者(K6得点5点以上)は、全体の26.2%であった。男女別でみるとK6得点5点以上の割合は、男性(22.8%)より女性(29.4%)の方が高かった。 $(\chi^2(3)=8.440, p < 0.05)$
(図表36)

図表36 K6 得点の分布

		男性	女性	全体
K6 得点区分	0～4点	541 (77.2%)	531 (70.6%)	1,072 (73.8%)
	5～9点	95 (13.6%)	138 (18.4%)	233 (16.0%)
	10～12点	35 (5.0%)	45 (6.0%)	80 (5.5%)
	13点以上	30 (4.3%)	38 (5.1%)	68 (4.7%)
	全体	701 (100.0%)	752 (100.0%)	1,453 (100.0%)

※問43 集計から除外:設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、答えたくない(1項目以上)、無回答(1項目以上)

【ギャンブル等依存が疑われる者とうつ、不安の関連】

SOGSの得点区別にK6の得点区分を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、有意に重度のうつ・不安障害が強いことが示された。 $(\chi^2(3)=19.303, p < .01)$ (図表37)

図表37 ギャンブル等依存とうつ、不安の相関

		K6 得点区分				全体
		0～4点(ns)	5～9点(ns)	10～12点(ns)	13点以上**	
SOGS 得点	5点未満	1,024 (73.8%)	225 (16.2%)	77 (5.6%)	61 (4.4%)	1,387 (100.0%)
	5点以上	13 (61.9%)	1 (4.8%)	2 (9.5%)	5 (23.8%)	21 (100.0%)
	全体	1,037 (73.7%)	226 (16.1%)	79 (5.6%)	66 (4.7%)	1,408 (100.0%)

※集計から除外:問43で設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)・答えたくない(1項目以上)・無回答(1項目以上)、SOGS(問22-35)に回答不備(n=144)

※残差分析の結果 *p < .05、**p < .01、ns: 有意差なし

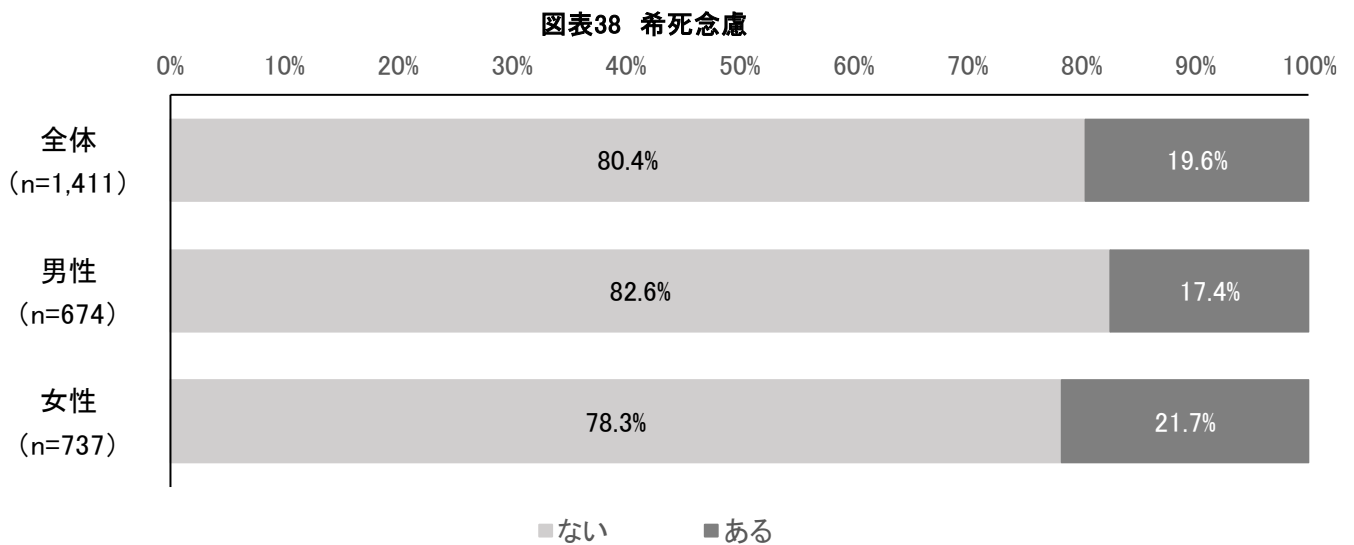
(2)ギャンブル等問題と希死念慮・自殺企図との関連

【問44】あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(単一選択)

【問45】あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。(単一選択)

【全体の傾向:希死念慮】

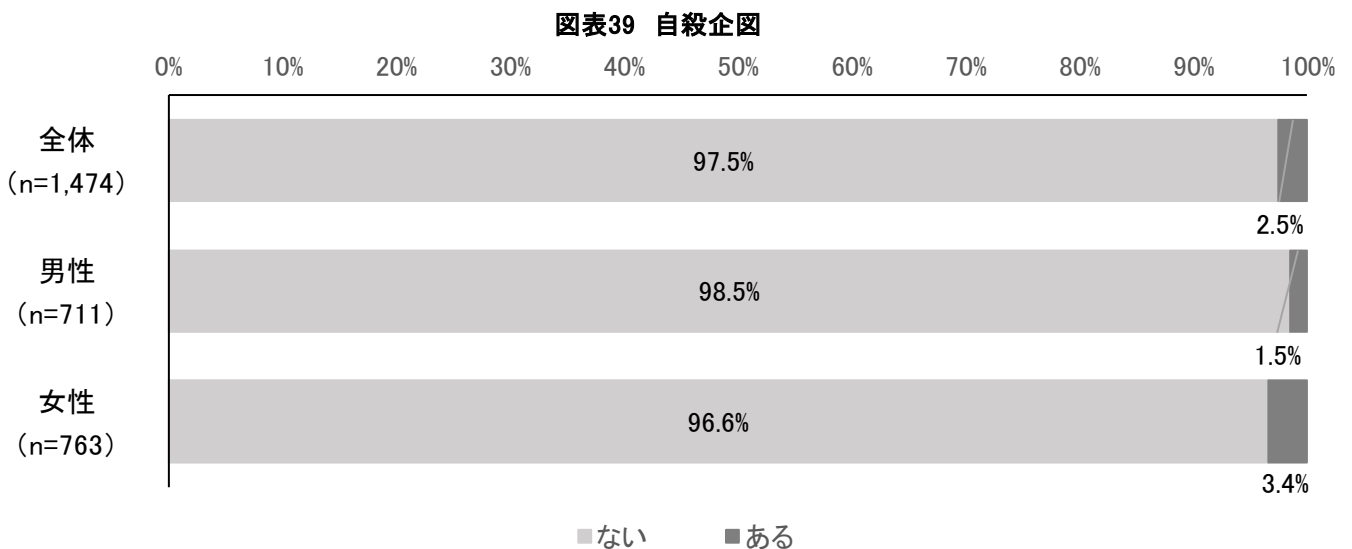
これまでに自殺したいと考えたことがあるとの回答割合は、全体で19.6% であり、男性では17.4%、女性では21.7%であった。(図表38)



※問44集計から除外: 答えたくない(n=90)、無回答(n=51)

【全体の傾向:自殺企図】

これまでに自殺未遂をしたことがあるとの回答割合は、全体では2.5% であり、男性では1.5%、女性では3.4% であった。(図表39)



※問45集計から除外: 答えたくない(n=31)、無回答(n=47)

【ギャンブル等依存が疑われる者と希死念慮】

SOGSの得点区別に「これまでに自殺したいと考えたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、希死念慮を有する割合が有意に高かった。 $(\chi^2(1)=2.449, p<.05)$ (図表40)

図表40 ギャンブル等依存と希死念慮

		希死念慮		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	1,083 (80.5%)	263 (19.5%)	1,346 (100.0%)
	5点以上	11 (57.9%)	8 (42.1%)	19 (100.0%)
	全体	1,094 (80.1%)	271 (19.9%)	1,365 (100.0%)

※集計から除外：問44で答えたくない(n=90)・無回答(n=51)、SOGS(問22-35)に回答不備(n=46)

【ギャンブル等依存が疑われる者と自殺企図】

SOGSの得点区別に「あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない群で、自殺企図を経験した割合に有意な差は認めなかった。(図表41)

図表41 ギャンブル等依存と自殺企図

		自殺企図		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	1,370 (97.5%)	35 (2.5%)	1,405 (100.0%)
	5点以上	19 (95.0%)	1 (5.0%)	20 (100.0%)
	全体	1,389 (97.5%)	36 (2.5%)	1,425 (100.0%)

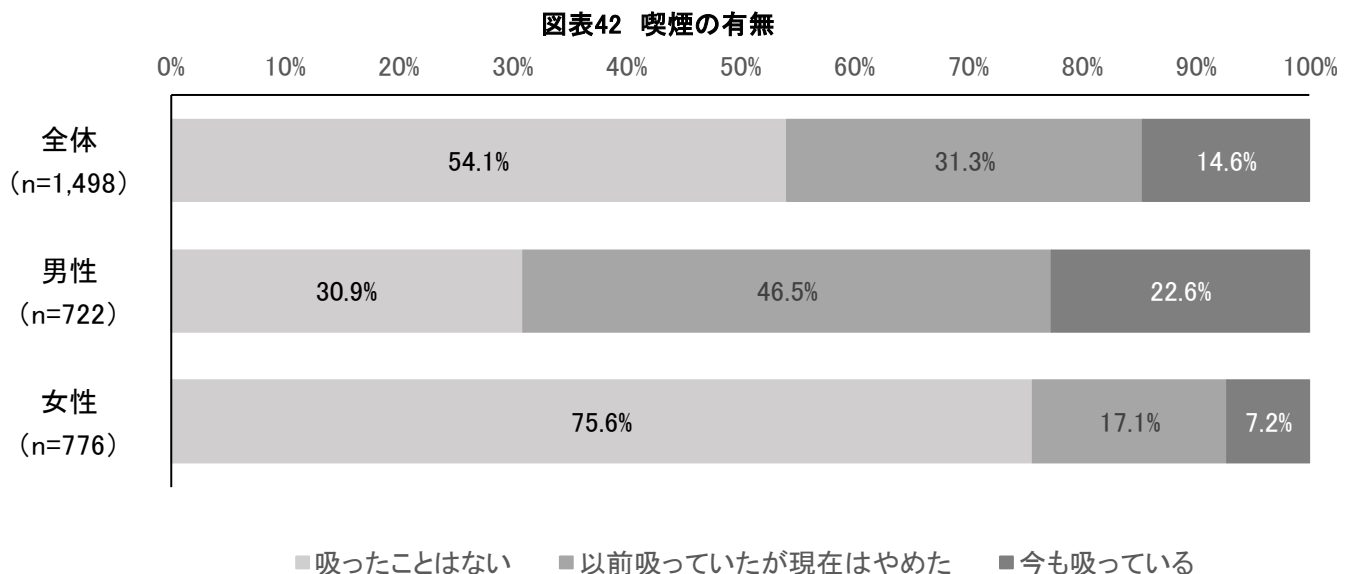
※集計から除外：問45で答えたくない(n=31)、無回答(n=47)、SOGS(問22-35)に回答不備(n=49)

(3) ギャンブル等問題と喫煙の関連

【問46】 あなたの喫煙(紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む)について、あてはまるものを1つ選んでください。

【全体の傾向:喫煙】

現在または過去の喫煙があるとの回答割合は、全体で45.9% であり、男性では69.1%、女性では24.4%であった。(図表42)



※問46集計から除外: 無回答(n=54)

【ギャンブル等依存が疑われる者と喫煙の関連】

SOGSの得点区別に喫煙歴を「吸ったことはない」「以前吸っていたが現在はやめた」「今も吸っている」に分類して比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では現在も喫煙している割合が有意に高かった。(χ²(2)=45.129, p<.01)(図表43)

図表43 ギャンブル等依存と喫煙の相関

		喫煙歴			全体
		吸ったことはない**	以前吸っていたが現在はやめた(ns)	今も吸っている**	
SOGS 得点	5点未満	793 (55.5%)	440 (30.8%)	197 (13.8%)	1,430 (100.0%)
	5点以上	0 (0.0%)	8 (38.1%)	13 (61.9%)	21 (100.0%)
	全体	793 (54.7%)	448 (30.9%)	210 (14.5%)	1,451 (100.0%)

※集計から除外: 無回答(n=54)、SOGS(問22-35)に回答不備(n=47)

※残差分析の結果 *p<.05、**p<.01、ns: 有意差なし

(4) ギャンブル等問題と飲酒問題との関連

【問47】 あなたはアルコール含有飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。(単一選択)

【問48】 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(単一選択)

【問49】 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(単一選択)

問47-49で用いたAUDIT-Cとは、アルコール使用障害のスクリーニングテストであり、AUDIT(The Alcohol Use Disorders Identification Test)の質問の中から飲酒量、飲酒頻度、多量飲酒頻度を問う3項目によってアルコール問題の有無を評価するもので、12点満点中、男性は5点以上、女性は4点以上の場合に、何らかのアルコール問題があるとされる。

【全体の傾向: 飲酒問題】

男性703名中AUDIT-C5点以上は237名(33.7%)であった。女性734名中、AUDIT-C4点以上は173名(23.6%)であった。(図表44)

図表44 AUDIT-C 得点の分布

		男性	女性	全体
AUDIT-C 得点区分	男性 0~4点 / 女性 0~3点	466 (66.3%)	561 (76.4%)	1,027 (71.5%)
	男性 5点以上 / 女性 4点以上	237 (33.7%)	173 (23.6%)	410 (28.5%)
	全体	703 (100.0%)	734 (100.0%)	1,437 (100.0%)

※集計から除外: 問47-49のうち、1つ以上無回答・答えない・矛盾回答(1問で2つ以上の選択肢を選択)(n=115)

【ギャンブル等依存が疑われる者と飲酒問題の関連】

SOGSの得点区分別に、AUDIT-Cによる飲酒問題のあり、なしの割合を比較したところ、有意な差は認められなかった。(図表45)

図表45 ギャンブル等依存と飲酒問題との相関

		飲酒問題		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	981 (71.7%)	387 (28.3%)	1,368 (100.0%)
	5点以上	15 (75.0%)	5 (25.0%)	20 (100.0%)
	全体	996 (71.8%)	392 (28.2%)	1,388 (100.0%)

※集計から除外: 問47-49のうち、1つ以上無回答・答えない・矛盾回答(1問で2つ以上の選択肢を選択)、SOGS(問22-35)に回答不備(n=49)

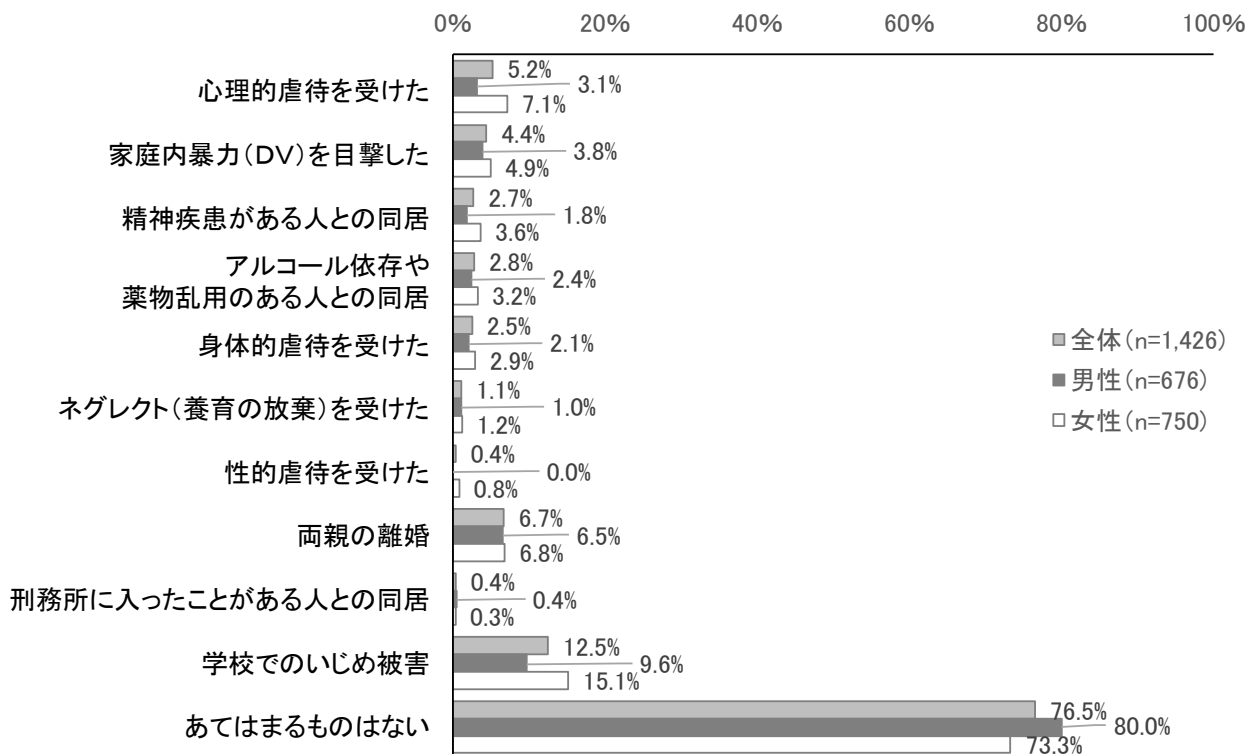
(5) ギャンブル等問題と小児期逆境体験との関連

【問51】 あなたが18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。

【全体の傾向：小児期逆境体験】

選択肢10項目の逆境体験のうち、1つ以上に該当した者は、全体で23.5%であり、男性では20.0%、女性では26.7%であった。図表46では、それぞれの項目に該当すると回答した者の割合を示した。経験頻度が最も高かったのは「学校でのいじめ被害」であり、男性の9.6%、女性の15.1%が「学校でのいじめ被害」を18歳までに経験したと回答した。(図表46)

図表46 小児期逆境体験の頻度



※問51 集計から除外：答えたくない(n=35)、無回答(n=91)

【ギャンブル等依存が疑われる者と小児期逆境体験】

SOGSの得点区別に18歳までの小児期逆境体験(10項目)のうち、1項目以上に該当する者の割合を比較したところ、SOGS 5点未満の23.7%に対し、ギャンブル等依存が疑われる者の群(SOGS 5点以上)では27.3%であったが、有意な差は認めなかった。性別で分けて比較しても同様の結果であった。(図表47)

図表47 ギャンブル等依存と小児期逆境体験

		小児期逆境体験		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5点未満	1,037 (76.3%)	322 (23.7%)	1,359 (100.0%)
	5点以上	16 (72.7%)	6 (27.3%)	22 (100.0%)
	全体	1,053 (76.2%)	328 (23.8%)	1,381 (100.0%)

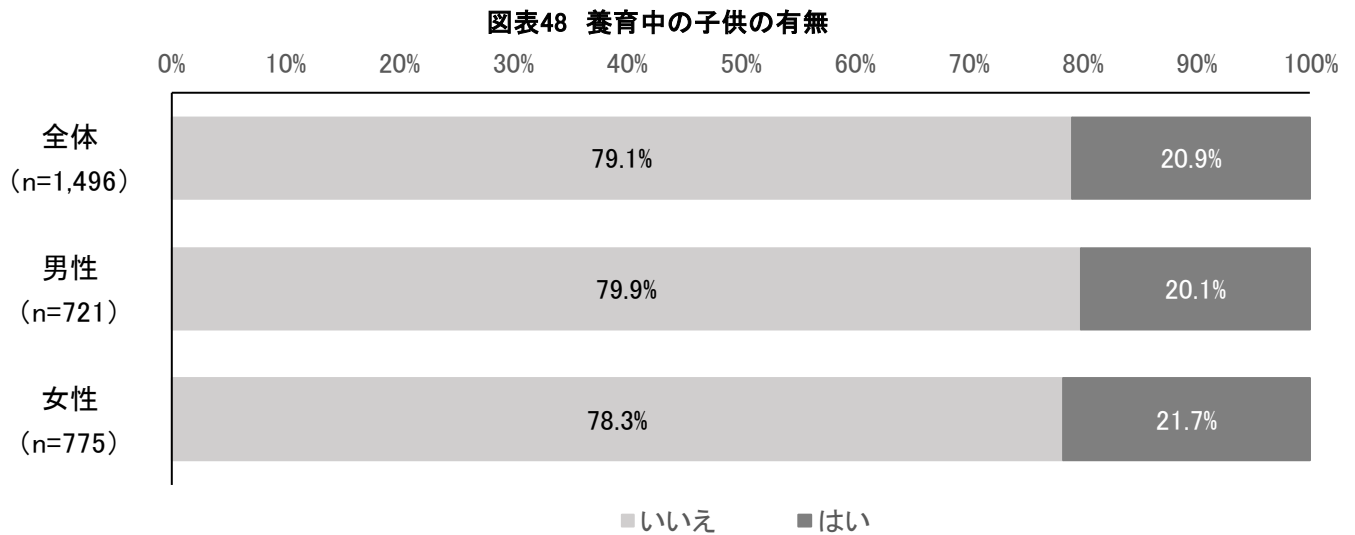
※集計から除外：問51で答えたくない(n=35)・無回答(n=91)、SOGS(問22-35)に回答不備(n=45)

(6)ギャンブル等問題と子育ての負担感との関連

【現在の18歳未満(児童)の子育て状況】

【問9】 現在あなたは18歳以下のお子さんを子育て中ですか。(単一選択)

1,496名中313名(20.9%)が18歳以下の子どもを子育て中と回答した。(図表48)



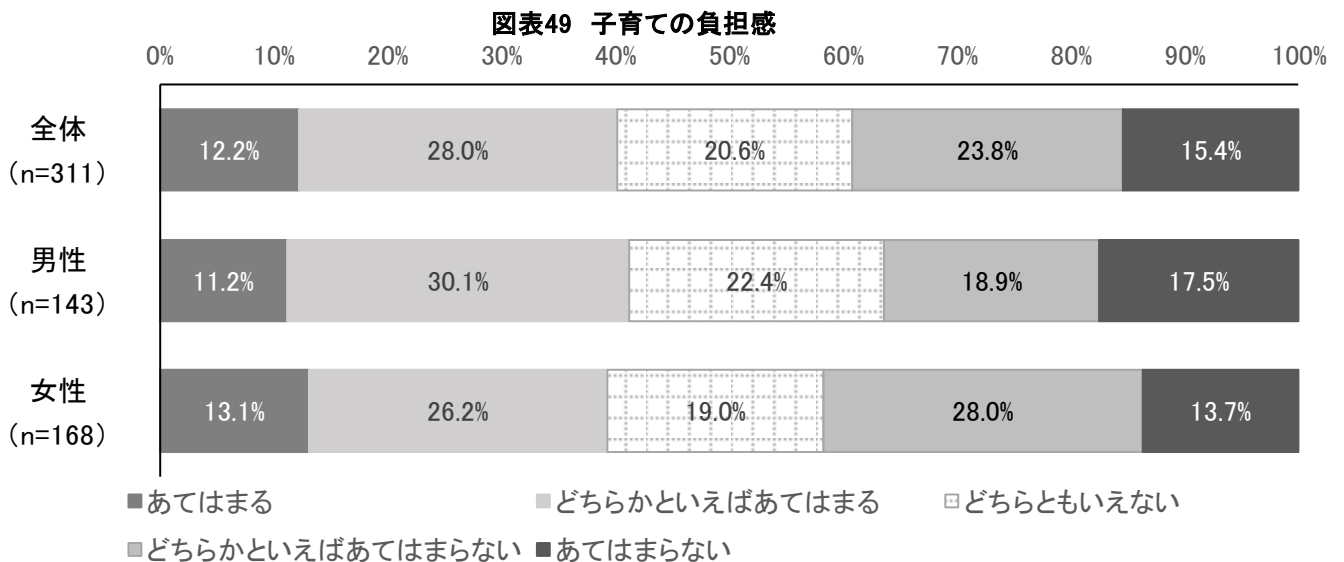
※問9 集計から除外:無回答(n=56)

【問10】 あなたは、子育てについて心配や負担感が強いですか。(単一選択)

続いて、18歳以下の子どもを子育て中の回答者にのみ「子育ての負担感」について尋ねた。

【全体の傾向:子育ての負担感】

子育ての負担感については、全体で「どちらかといえばあてはまる」が28.0%と最も多く、次いで「どちらともいえない」の20.6%であった。負担感が少ないとの回答(「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」の合計)が39.2%であったのに対し、負担感が多いとの回答(「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計)は40.2%とほぼ同等であった。(図表49)



※問10 集計から除外:条件分岐(問9で養育中ではないと回答)、無回答(n=2)

【ギャンブル等依存が疑われる者と子育ての負担感】

【問9】で子育て中と回答し、かつSOGs得点の集計対象とした303名について、SOGsの得点区別に子育ての負担感の回答割合を比較した。その結果、「あてはまる」の割合がSOGs 5点未満の15.9%に対し、SOGs 5点以上では12.5%であったが、有意な差は認めなかった。(図表50)

図表50 ギャンブル等依存と子育ての負担感

		子育ての負担感					全体
		あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまる	あてはまる	
SOGs 得点	5点未満	34 (11.5%)	82 (27.8%)	61 (20.7%)	71 (24.1%)	47 (15.9%)	295 (100.0%)
	5点以上	1 (12.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
	全体	35 (11.6%)	84 (27.7%)	63 (20.8%)	73 (24.1%)	48 (15.8%)	303 (100.0%)

※集計から除外：条件分岐(問9で養育中ではないと回答)、問10で無回答(n=2)、SOGs(問22-35)に回答不備(n=8)

7.6 ギャンブル等依存症対策とギャンブル等依存症に関する認識および新型コロナの影響

(1)ギャンブル等依存症対策の認知度

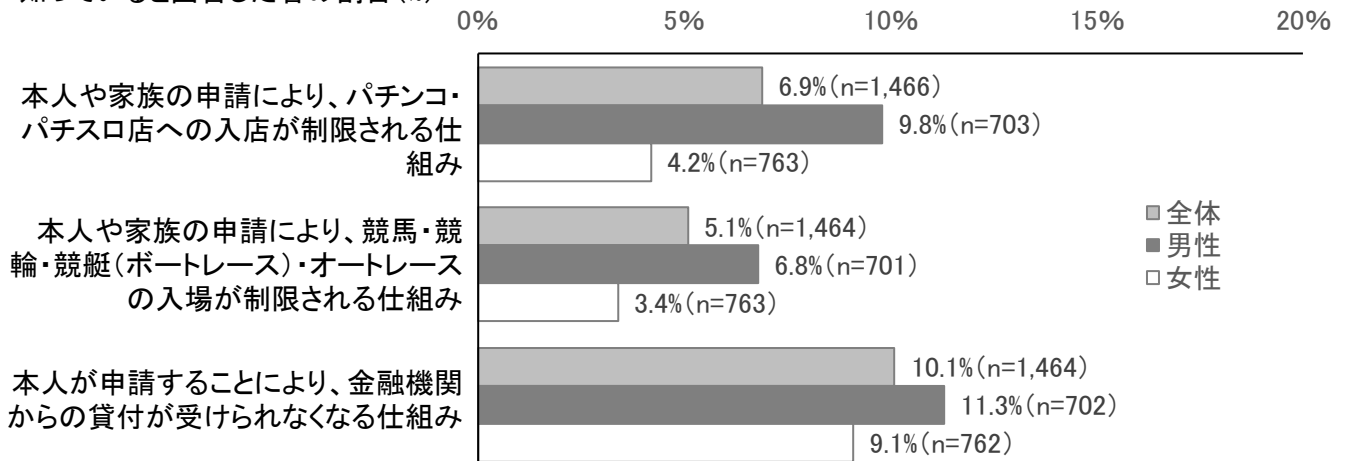
【問41】 ギャンブル等依存症対策に関する下記の①～③の仕組みについて、知っている、または、知らない、を選んで○をつけてください。

【全体の傾向】

ギャンブル等依存症対策に関して、「知っている」との回答は、全体の「パチンコ・パチスロの入店制限」は6.9%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は5.1%、「金融機関からの貸付制限」が10.1%であった。また、全ての項目で女性より男性の方が「知っている」と回答した割合が高い傾向にあった。(図表51)

図表51 ギャンブル等依存症対策の認知度

知っていると回答した者の割合(%)



※問41 集計から除外:無回答

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるギャンブル等依存症対策に関する認知度】

ギャンブル等依存症対策に関して、いずれの項目でもSOGS5点以上の者は、5点未満のものとは比べ、「知っている」と回答した割合が有意に高かった。SOGS 5点以上の者のうち、「パチンコ・パチスロの入店制限」は27.3%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は22.7%、「金融機関からの貸付制限」は36.4%が「知っている」と回答した。(図表52)

図表52 ギャンブル等依存症対策等を「知っている」と回答した者の割合【SOGS得点区分比較】

		本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み a	本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み b	本人が申請することにより、金融機関からは貸付が受けられなくなる仕組み c
SOGS 得点	5点未満	89 (6.3%) 【有効回答者 1,402】	64 (4.6%) 【有効回答者 1,400】	134 (9.6%) 【有効回答者 1,400】
	5点以上	6 (27.3%) 【有効回答者 22】	5 (22.7%) 【有効回答者 22】	8 (36.4%) 【有効回答者 22】
	全体	1,424	1,422	1,422

※集計から除外:問41で無回答、SOGS(問22-35)に回答不備

※ χ^2 検定の結果 a: $\chi^2(1)=15.232, p<0.01$ 、b: $\chi^2(1)=15.465, p<0.01$ 、c: $\chi^2(1)=17.297, p<0.01$

(2) 依存症などの疾患に対する考え方

【問42】 以下に掲げる病気になったのは、「本人の責任である」と思いますか。(各疾患につき単一選択)

「本人の責任である」と思う人の割合(「そう思う」、「強くそう思う」の合計)はギャンブル等依存症では75.0%、アルコール依存症は64.0%、うつ病では13.9%であった。また、身体疾患で「本人の責任である」と思う人の割合は、がんは6.2%、糖尿病は30.8%であった。(図表53)

図表53 病気に対する考え方(男女別)

病気になったのは 「本人の責任である」 と思うか	うつ病		アルコール依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	180 (26.0%)	219 (29.0%)	48 (6.9%)	43 (5.7%)
そう思わない	184 (26.6%)	251 (33.2%)	49 (7.1%)	86 (11.4%)
どちらでもない	210 (30.3%)	202 (26.8%)	126 (18.1%)	169 (22.5%)
そう思う	92 (13.3%)	62 (8.2%)	302 (43.5%)	317 (42.2%)
強くそう思う	26 (3.8%)	21 (2.8%)	170 (24.5%)	137 (18.2%)
全体	692 (100.0%)	755 (100.0%)	695 (100.0%)	752 (100.0%)

病気になったのは 「本人の責任である」 と思うか	がん		ギャンブル等依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	347 (50.1%)	421 (55.9%)	46 (6.6%)	36 (4.8%)
そう思わない	152 (21.9%)	167 (22.2%)	32 (4.6%)	53 (7.0%)
どちらでもない	138 (19.9%)	132 (17.5%)	81 (11.7%)	115 (15.2%)
そう思う	42 (6.1%)	26 (3.5%)	271 (39.0%)	309 (40.9%)
強くそう思う	14 (2.0%)	7 (0.9%)	264 (38.0%)	243 (32.1%)
全体	693 (100.0%)	753 (100.0%)	694 (100.0%)	756 (100.0%)

病気になったのは 「本人の責任である」 と思うか	糖尿病	
	男性	女性
全くそう思わない	111 (15.9%)	120 (15.9%)
そう思わない	94 (13.5%)	151 (20.1%)
どちらでもない	251 (36.0%)	277 (36.8%)
そう思う	193 (27.7%)	167 (22.2%)
強くそう思う	48 (6.9%)	38 (5.0%)
全体	697 (100.0%)	753 (100.0%)

※問42 集計から除外:設問内矛盾(2つ以上選択)、無回答、答えたくない

(3) 新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル等

【問50】 新型コロナウイルス感染症拡大前(令和2年1月時点)と現在を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブル等はどのように変化しましたか。(単一選択)

【全体の傾向】

生涯ギャンブル等経験のある者において、全体の84.7%がインターネットを使ったギャンブル等を「したことがない」と回答した。「新たに始めた」と「する機会が増えた」の合計は3.2%、「する機会が減った」は1.7%であった。(図表54)

図表54 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル等【全体】

		男性	女性	全体
コロナ禍におけるインターネットギャンブル等利用の変化	新たに始めた	11 (1.8%)	4 (0.8%)	15 (1.4%)
	する機会が増えた	17 (2.8%)	3 (0.6%)	20 (1.8%)
	する機会が減った	13 (2.2%)	5 (1.0%)	18 (1.7%)
	する機会に変化はない	91 (15.1%)	22 (4.6%)	113 (10.4%)
	したことがない	472 (78.1%)	445 (92.9%)	917 (84.7%)
	全体	604 (100.0%)	479 (100.0%)	1,083 (100.0%)

※問50集計から除外:無回答(n=19)

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるコロナ禍のインターネットを使ったギャンブル等】

過去1年間にギャンブル等経験のある者で、問50に有効回答した者(n=452)を対象に、SOGs得点区分でインターネットギャンブル等利用の変化について比較した。

インターネットを使ったギャンブル等を「したことがない」と回答したのは、SOGs 5点未満の群では69.5%、SOGs 5点以上の群では63.6%であり、SOGs 5点以上の者でインターネットギャンブル等の利用経験がある者が多かった。

新型コロナウイルス感染症拡大前の令和2年1月時点と比較し、インターネットを使ったギャンブル等を「する機会が増えた」との回答は、SOGs 5点未満では4.2%で、SOGs 5点以上では4.5%であった。一方、「する機会が減った」と回答した割合は、SOGs 5点未満では3.0%で、SOGs 5点以上では9.1%で有意な差は認めなかった。

(図表55)

図表55 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル等【SOGs得点区分比較】

		インターネットギャンブル等利用の変化					全体
		新たに始めた(ns)	する機会が増えた(ns)	する機会が減った(ns)	する機会に変化はない(ns)	したことがない(ns)	
SOGs得点	5点未満	10 (2.3%)	18 (4.2%)	13 (3.0%)	90 (20.9%)	299 (69.5%)	430 (100.0%)
	5点以上	1 (4.5%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	4 (18.2%)	14 (63.6%)	22 (100.0%)
	全体	11 (2.4%)	19 (4.2%)	15 (3.3%)	94 (20.8%)	313 (69.2%)	452 (100.0%)

※集計から除外:問50で無回答・無効回答 (n = 4)

※残差分析の結果 *p <.05 **p <.01、ns: 有意差なし

8 調査結果のまとめ

今回の調査の結果の概要を以下にまとめる。

(1)ギャンブル等行動

男性の 82.4%、女性の 60.5%が、生涯にギャンブル等の経験があり、過去1年間にギャンブル等経験のある者は、男性の 45.0%、女性の 21.4% であった。年齢別では、過去1年間でギャンブル等の経験のある割合が最も高いのは 50 歳代(50～59 歳)であった。ギャンブル等の種類では、過去 1 年間で最も経験した者が多かったのは宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)であり、競馬がその次に多かった。過去1年間に最もお金を使ったギャンブル等の種類は、男女とも宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)が最多で、パチンコが次に多かった。

(2)ギャンブル等問題

家族や重要な他者にギャンブル等問題があったと回答したのは、全体の 14.8%(男性 9.8%、女性 19.3%)であり、男女とも「父親」にギャンブル等問題があったという回答が最多であったが、男性では「他の選択肢以外の自分にとっての大事な人」が次ぎ、女性では「配偶者」が次に多かった。家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響として、男女とも「浪費、借金による経済的困難が生じた」が最多であったが、男性では「借金の肩代わりをした」が次ぎ、女性では「ギャンブル等を止められない人への怒りを感じた」が次に多かった。

(3)ギャンブル等依存が疑われる者

SOGS 5 点以上で過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で 1.5%、男性が 2.9%、女性が 0.1% であった。年齢調整後の割合は、全体で 1.3%(95%信頼区間 0.8 ~ 2.0%)、男性 2.7%(95%信頼区間 1.6 ~ 4.2%)、女性 0.1%(95%信頼区間 0.0 ~ 0.7%)であった。

なお、PGSI では、過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で 0.8%、年齢調整後は 0.7%(95%信頼区間 0.4 ~ 1.3%)であった。

(4)ギャンブル等関連問題

① 抑うつ、不安

K6 を用いて過去1か月の抑うつ・不安の強さを評価したところ、SOGS 5 点以上の者は、5 点未満の者と比較して、有意に重度のうつ・不安障害が疑われた。

② 希死念慮と自殺企図

今までに自殺を考えたことがある者の割合を SOGS 5 点以上の者と 5 点未満の者で比較したところ、SOGS 5 点以上の者は有意に割合が高かった。自殺企図においては有意な差は確認できなかった。

③ 喫煙

喫煙率を SOGS 5 点以上の者と 5 点未満の者で比較したところ、SOGS 5 点未満の者では 13.8%が喫煙者であったが、SOGS 5 点以上の者では 61.9% と有意に高い割合であった。

④ 飲酒問題

飲酒問題を AUDIT-C で評価したところ、全体で 28.5%、男性が 33.7%、女性が 23.6%に何らかのアルコール問題があるとされた。SOGS 5 点以上の者と 5 点未満の者で比較したところ、両者に有意な差を確認できなかった。

⑤ 小児期逆境体験

幼少期や思春期までに経験した身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトなどの過酷な体験は、子どもの心理発達に深刻な影響を与え、その後の人生において健康上の問題と関連することが指摘されていることから、本調査では、小児期逆境体験について情報を得た。18 歳までの小児期逆境体験があるのは全体で

23.5%、男性が 20.0%、女性が 26.7%だった。小児期逆境体験の有無を SOGS 5 点以上の者と 5 点未満の者と比較したところ、有意な差は確認できなかった。

(5) ギャンブル等依存症対策の認知度

本調査では、①本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み、②本人・家族の申請により競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み、③本人の申請により、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組みといったギャンブル等依存症対策の認知度を調査した。

知っているという回答した者の割合は、全体でそれぞれ 6.9%、5.1%、10.1% といずれも低い割合であったが、SOGs 5 点以上の者では、それぞれ 27.3%、22.7%、36.4% が知っているという回答しており、ギャンブル等依存が疑われる者では、ギャンブル等問題がない者と比較して、認知度が高いことが示された。

(6) 依存症などの疾患に対する考え方

がん、糖尿病といった身体疾患、うつ病、アルコール依存症、ギャンブル等依存症といった精神科疾患について、それぞれの病気が本人の責任と思うか 5 段階でその程度を回答してもらったところ、「そう思う」、「強くそう思う」と回答した割合は、身体疾患である「がん」が 6.2%、「糖尿病」が 30.8%で、精神疾患である「うつ病」が 13.9%、「アルコール依存症」が 64.0%であったのに対して、「ギャンブル等依存症」については 75.0%であり、多くの回答者が本人の責任と考えていた。

(7) 新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル等

新型コロナウイルス感染拡大防止のための自粛生活が、インターネットを使ったギャンブル等の利用を増加させる懸念があることから、コロナ禍においてインターネットを使ったギャンブル等が、「増えた」、「減った」、「変わらない」、「新たに始めた」、「インターネットを使ったギャンブル等はしたことがない」から選択してもらったところ、全体の 84.7%は「インターネットを使ったギャンブル等の経験はない」と回答し、「新たに始めた」や「機会が増えた」と回答した者は全体の 3.2% であった。一方、SOGs 5 点以上の者の者で「機会が増えた」と回答した者は 4.5% で、SOGs 5 点未満の者(4.2%)と割合としては大きく変わらなかった。

9 調査結果の考察

(1) 大阪府民のギャンブル等行動

① ギャンブル等の経験と経験したギャンブル等の種類、購入方法

生涯においてギャンブル等を経験したことがある人は男性 82.4%、女性 60.5%で、過去 1 年間でギャンブル等を行った人は、男性 45.0%、女性 21.4%であり、女性より男性でギャンブル等の経験が多く、これらは、令和 2 年 10 月～12 月に久里浜医療センターによって実施された全国調査¹⁾(以下、全国調査)の結果とほぼ同様の結果であった。生涯で経験したギャンブルは、宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)、パチンコ、競馬、パチスロの順で多く、過去 1 年間で経験したギャンブルは、宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)、競馬、パチンコ、パチスロの順で多かった。

また、競馬・競輪・競艇・オートレースの経験が過去 1 年間に「週 1 回未満」または「週 1 回以上」と回答した者を対象に集計したところ、オンライン購入を利用していたのは、競馬で 75.4%、競輪で 33.3%、競艇で 69.2%、オートレースは 100%であった。オンラインは時間や場所を選ばず、手軽なことなどから、今後オンライン購入の増加が懸念される。

② ギャンブル等開始年齢

ギャンブル等を開始したのは、10 歳代で 31.6%、20 歳代で 56.1%であった。ギャンブル等の経験のある人のうち、少なくとも月 1 回以上の頻度で習慣的にギャンブル等をするようになったのは 40.2%(男性 60.1%、女性 14.1%)であり、男性の方が習慣的にギャンブル等をするようになる傾向がみられた。また、習慣的にギャンブル等をするようになった年齢は、10 歳代で 10.1%、20 歳代で 20.7%であった。

初めてギャンブル等をした年齢は、18 歳と 20 歳にピークがみられた。ギャンブル等の開始は、法律における年齢制限に加えて、進学や就労など生活環境の変化の影響が考えられる。なお、女性では 18 歳から開始した割合が男性より低く、異なる傾向が見られた。これらを踏まえて、依存症に関する知識や相談できる場所などについて啓発を進めていくことが必要であると思われる。さらに、18 歳未満で開始している人が 6.1%(64 名)おり、開始年齢が低いことはギャンブル障害のリスク要因である²⁾と報告されていることから、子どもへの予防教育だけでなく、周囲の大人への啓発や、子どもがギャンブル等をできないような仕組みなどが必要と考えられる。

③ 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響

家族や重要な他者にギャンブル等の問題がある(あった)のは、男性 9.8%、女性 19.3%で、女性に多かった。ギャンブル等の問題がある(あった)人は男女ともに「父親」(男性 5.2%、女性 7.7%)が最も多く、女性では「父親」に次いで、「配偶者(内縁を含む)」(6.7%)が多かった(男性は 0.7%)。

また、ギャンブル等問題から受けた影響は、「浪費、借金による経済的困難が生じた」「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」の順に多かった。男女を比較すると、「ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた」(男性 11.3%、女性 35.7%)、「家庭不和・別居・離婚を経験した」(男性 7.0%、女性 19.5%)の項目において女性で多く、統計学的にも有意であった。

ギャンブル等の問題については家族等への影響が大きく、家族等への支援が重要と考える。さらに、ギャンブル等の問題がある人のいる家庭で育つ子どもへの影響を考えていく必要があると思われる。相談するところは家族・友人が 57.1%で最も多く、相談された家族や友人が、適切な対応ができるよう、依存症の知識や相談できる場所についての啓発が重要と考えられる。

また、ギャンブル等のことで困った時の相談先として、公的な相談機関の選択は 34.9%であった。大阪府はこれまでも依存症相談拠点(精神保健福祉センター、保健所)での相談や、依存症相談についての啓発等に取り組んできているが、今後、より一層注力していくことが必要と思われる。

一方で、「誰(どこ)にも相談しない」が 17.2%であった。今回の調査ではその理由は尋ねていないが、令和元年の大阪府の「ギャンブル等の問題でお困りの方(ご本人)の状況についてのアンケート調査」³⁾では、ギャンブル等の問題で困った時に相談しやすくするために重要なものとして、「ギャンブル等依存症に関する正しい知識が広く知れ渡る」(全回答者の 49.3%)、「ギャンブル等依存症に関する相談窓口の情報が広く知れ渡る」(同 40.0%)などが示され、ギャンブル等の問題で困っている本人・家族等が支援につながるためには、正しい知識の普及啓発や相談窓口の周知が必要と考えられる。

(2)「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

① 回収率

有効回答率は 31.0%にとどまり、十分な回答を得られなかった。回答者にとって、質問項目の多いことによる負担感、調査名称に含まれる「ギャンブル」という表記に対する抵抗感、住民基本台帳からの無作為抽出についての警戒感などが影響した可能性が考えられる。

② SOGS、PGSI での評価

SOGS では、1.3%が「ギャンブル等依存が疑われる者」であった。ただし、SOGS 5 点以上を示す者は DSM-5 による診断基準を満たすものよりも多いと言われており、SOGS 5 点以上の者が必ずしもギャンブル等依存症を意味するわけではない³⁾。PGSI では得点 8 点以上の回答者を「ギャンブル等依存症が疑われる者」としているが、その結果は、0.7%であった。今回の調査では得られた回答数が少ないため、これをもって大阪府の傾向とすることは難しく、また、今後の調査で大きく変動する可能性があることを踏まえておく必要がある。

また、「SOGS 5 点以上」「PGSI 8 点以上」を「ギャンブル等依存症が疑われる者」として検討したが、予防等の観点からは、閾値以下の SOGS 3 点・4 点の「将来的なリスクがある」、PGSI 3~7 点の「中程度の問題がある」とされる人に着目し、対策を検討することも必要と思われる。

③ 性差

「ギャンブル等依存が疑われる者」は、「SOGS 5 点以上」は、男性 21 名、女性 1 名、「PGSI 8 点以上」は、男性 12 名、女性 0 名で、男性が多かった。

④ 全国調査¹⁾との比較

本調査では、全国調査と同様に住民基本台帳より市区町村から二段無作為抽出法を用いて調査対象者を抽出するとともに、回答方法は郵送回答と Web 回答とを併用し、調査項目も全国調査と同様とした。一方で、全国調査では対象が「満 18 歳以上 75 歳未満の日本国籍を有する者(日本国籍を有する海外出身者を含む)」であったのに対し、本調査では「満 18 歳以上の者」であること、調査名称が全国調査は「娯楽と健康に関する調査」で、本調査が「ギャンブル等と健康に関する調査」であったこと、全国調査では回答者に謝礼があったことなど、調査方法に異なる点があった。また、回答者の基本属性を比較すると、全国調査では総務省統計局人口推計令和元年 10 月 1 日人口より算出した性別人口比、年齢階級別人口比と同等の分布が得られたのに対し、本調査では 50~70 歳代の分布が多く、平均年齢も高かった。

以上のように、調査方法や対象が異なることや、調査における有効回答率が低いことなどから、SOGS の点数での評価等について本調査と全国調査を比較することは困難である(参考として巻末資料に全国や他県市で実施された調査結果の概要を掲載)。

(3)「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動

SOGS 5 点以上の者が、過去 1 年間で経験したギャンブル等は、パチンコ、パチスロ・競馬、宝くじ(ロト・ナンバーズ含む)の順に多かった。1 か月あたりギャンブル等に使った金額は 1 万円以上 5 万円以下が最も多く、

中央値は 5 万円であった。

SOGS 5 点以上が 22 名と少ないことから、内容の詳細についての解釈は慎重に行う必要がある。今回、回答数が少なく、関連について検討することは困難であったが、今後、「ギャンブル等依存が疑われる者」と、「婚姻状況や同居者、職業、仕事の種類、学歴、年収」、「ギャンブル等の種類」、「ギャンブル等の開始年齢」、「家族や重要な他者のギャンブル等の問題」、「ギャンブル等関連行動」等の関連について検討することが重要と考える。

(4)「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル等関連問題」

① 抑うつ、不安(K6)

K6 は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された、一般住民を対象とした調査で、心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。合計点数 0～4 点(問題なし)、5～9 点(何らかのうつ・不安問題がある可能性がある)、10～12 点(うつ・不安障害が疑われる)、13 点以上(重度のうつ・不安障害が疑われる)と、得点が高いほど、精神的な問題がより重い可能性がある⁵⁾とされている。

K6 の得点が 5 点以上で、過去 1 か月の間に、「抑うつ・不安」の問題があるものは、全体の 26.2%で、男女別では、男性(22.8%)より女性(29.4%)で割合が高かった。これらは、全国調査¹⁾と概ね同様の結果であった。

SOGS 5 点以上では、K6 の得点 13 点以上(重度のうつ・不安障害が疑われる)は 23.8%で、SOGS 5 点未満のうちの K6 13 点以上(4.4%)と比較して割合が高く、統計学的にも有意であった。ギャンブル障害では、精神疾患の合併が多く、中でもニコチン依存を含む物質使用障害、アルコール使用障害、気分障害、不安障害が多いとされている^{6) 7) 8)}ため、ギャンブル等依存が疑われる者については抑うつや不安にも留意して対応する必要がある。

② 希死念慮、自殺企図

「これまでに自殺したいと考えたこと」があるとの回答は、全体で 19.6%(実数 263)、SOGS 5 点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」では 42.1%(実数 8)であった。ギャンブル等依存が疑われる者に高い割合で希死念慮が認められ、統計学的にも有意であった。また、「これまでに自殺未遂をしたことがある」と回答したのは、全体で 2.5%(実数 35)、SOGS 5 点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」では、5%(実数 1)であった。ギャンブル障害では、自殺企図率の高さが指摘⁶⁾されており、日本で行われた調査で病的ギャンブラーにおける自殺念慮の生涯経験率 62.1%、自殺企図経験率 40.5%⁹⁾との報告もある。今後も、ギャンブル等の問題のある人と接する可能性のある人への啓発とともに、自殺対策等と連動して対策を進めていくことが重要であると考えられる。

③ 喫煙、飲酒

SOGS の得点区別に喫煙歴を比較したところ、「今も吸っている」は 5 点未満で 13.8%、5 点以上で 61.9%であり、「ギャンブル等依存が疑われる者」では現在も喫煙している割合が高く、統計学的にも有意であった。SOGS の得点区別に、AUDIT-C による飲酒問題の有無について割合を比較したところ、差は確認できなかった。本調査では、ギャンブル等依存が疑われる者に高い喫煙率を認めた。飲酒問題については関連が確認できなかったが、回答数の少なさが影響した可能性もある。ニコチン、アルコールを含む物質関連障害とギャンブル障害の併存について報告^{6) 7)}されており、クロスアディクションとの視点で啓発や相談対応等を進めていく必要があると考える。

④ 小児期逆境体験

回答者全体の 23.8%に何らかの逆境体験を認めた。最も経験頻度が高いのは「学校でのいじめ被害」であっ

た。これらは全国調査¹⁾と概ね同様の結果であった。小児期の逆境体験は、慢性的な身体疾患や精神健康上の問題を引き起こすことが明らかになっており、小児期逆境体験と関連する精神保健上の問題として、うつや不安、自殺企図、アルコールや薬物などの物質関連障害が知られている¹⁰⁾。今回の調査で、小児期の逆境体験を持つ大阪府民が一定数いることが推測され、府民の精神保健の健康の保持・増進において、小児期逆境体験による影響を考慮し、トラウマ関連事象への対策を進めていくことは、非常に重要であると思われる。

本調査からは、SOGS 5 点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」との関連について確認することはできなかったが、虐待やトラウマなどのネガティブな小児期の体験はギャンブル障害のある人で多くみられ、マルトリートメントの深刻度が低年齢でのギャンブル開始とギャンブル問題の深刻度に関連する⁸⁾との報告や、ギャンブル障害や物質関連障害と小児期逆境体験との関連と、その臨床的な意義についての指摘¹¹⁾などがあり、アルコールや薬物などの依存症対策などとともに、小児期の逆境体験による影響について、啓発や相談対応等を進めていく必要があると考える。

⑤ 子育ての負担感

回答者全体の 40.2%が、「子育てについての心配や負担感が強い」との質問に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した。SOGS 5 点以上の「ギャンブル等依存が疑われる者」との関連については確認されなかったが、ギャンブル等に関わりなく、18 歳以下の子育てをしている多くの府民で、男女を問わず、負担感を感じていることがわかった。今後、子育てへの負担感とこころの健康との関連について、検討することが必要と思われる。

(5)ギャンブル等依存症対策とギャンブル等依存症に関する認識および新型コロナの影響

① ギャンブル等依存症対策の認知度

「本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み」を知っているのは 6.9%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み」は 5.1%、「本人が申請することより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み」は 10.1%と、十分知られていないことがわかった。これらが利用されるためには、周知をさらに進める必要がある。

② ギャンブル等依存症に対する考え方

ギャンブル等依存症が「本人の責任だと思ふ」割合が、75.0%であった。世の中では、未だ「ギャンブル等依存症は本人の責任だと思ふ」人が多く、そのような誤解と偏見の中では、本人や家族が治療や相談につながることは困難である。本人を責めるのではなく、「意志や性格の問題ではなく、誰もがなり得る病気である」「誰かに相談することや、サポートを得ることが大切である」ということなどを啓発していくことが重要であると考えられる。

③ 新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル等

本調査からは、新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル等の影響は確認できなかったが、インターネットを介した様々な社会的行動が急速に普及しており、この方向性は今後も進んでいくことが予測される。インターネットを介したギャンブル等行動については、アクセスが容易であり、手軽にできることなどから、今後さらに増加することが懸念される。このため、啓発等の中で注意喚起していくことも必要と思われる。

おわりに

本調査は、「大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に定められた調査として、大阪府民における「ギャンブル等の経験」や「ギャンブル等行動」の実態、「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」、および「ギャンブル等依存が疑われる者」におけるギャンブル等関連問題の実態等を明らかにすることを目的として実施した。これにより、大阪府におけるギャンブル等依存症対策を講じていく上での基礎資料を得ることができた。しかしながら、今回の調査では回収率および有効回答率が低く、「ギャンブル等依存が疑われる者」に該当する者の数が少なく、十分な検討をすることが難しかった。また、今回の調査は新型コロナウイルス感染拡大の流行下で実施され、平常時と異なる心理社会的な状況に置かれていたことや、行動様式に変化が生じていたことなどにより影響を受けた可能性は否定できない。したがって、本調査の結果のみで、大阪府民におけるギャンブル等依存が疑われる者の実態およびギャンブル等依存症の関連問題の実態について結論づけることは難しく、今後もデータを蓄積し、長期的な観点から実態を把握することが望ましいと考えられる。

謝辞

最後に、本調査のためにご協力いただきました全ての方々に深く感謝を申し上げます。
ありがとうございました。

参考文献

- 1) 松下幸生, 新田千枝, 遠山朋海: 令和2年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」, 2021年
- 2) Johansson J, Grant JE, Kim SW, et al: Risk factors for problematic gambling: a critical literature review. *J Gambl Stud* 25:67-92, 2009
- 3) 「ギャンブル等の問題でお困りの方(ご本人)の状況についてのアンケート調査」. (2019). 大阪府.
- 4) Goodie AS, MacKillop J, Miller JD, Fortune EE, Maples J, Lance CE, Campbell WK: Evaluating the South Oaks Gambling Screen with DSM-IV and DSM-5 criteria: Results from a diverse community sample of gamblers. *Assessment*, 20(5):523-531, 2013
- 5) 厚生労働省 国民生活調査 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html>
- 6) 松下幸生「ギャンブル障害 現状とその対応」*精神医学* 60:161-172, 2018
- 7) Dowling NA, Cowlishaw S, Jacson AC, et al: Prevalence of psychiatric co-morbidity in treatment-seeking problem gamblers: A systematic review and meta-analysis. *Aust N Z J Psychiatry* 49:519-539, 2015
- 8) Hodgins DC, Stea JN, Grant JE: Gambling disorders. *Lancet* 378:1874-1884
- 9) 田中克「いわゆるギャンブル依存症の実態と地域ケアの促進」平成20年度厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書
- 10) Hughes K, Bellis MA, Hardcastle KA, Sethi d, Butchart A, Mikton C, Jones L, Dunne MP: The effect of multiple adverse childhood experiences on health: a systematic review and metaanalysis. *Lancet Public Health*. 2017 Aug; 2(8):e356-e366
- 11) 小林桜児「物質関連障害および嗜癮性障害と小児期逆境体験」*精神医学* 61:1151-1157, 2019

巻末資料

(1)「ギャンブル等と健康に関する調査」結果検討会議委員名簿(五十音順 敬称略)

委員名	所属	備考
今村 知明	公立大学法人 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 教授	学識経験者
岩田 和彦	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター 院長	依存症治療拠点機関
小原 圭司	島根県立心と体の相談センター 所長	関係行政機関
滝口 直子	大谷大学 社会学部 教授	学識経験者
野田 龍也	公立大学法人 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 准教授	学識経験者

(2)全国および他府県市のギャンブル等依存症にかかる実態把握調査結果

	今回の調査 (大阪府 (R2))	全 国		他府県市		
		全国調査 (R2) *1 結果報告	全国調査 (H29) *2 中間とりまとめ	長崎県 (R2) *3 結果報告	神奈川県 (R1) *4 速報版	横浜市 (R1) *5 結果報告
実施主体	大阪府	久里浜医療センター ※厚生労働省令和2年度 依存症に関する調査研究 事業	日本医療研究開発機構 (AMED) ※久里浜医療センターに 委託	長崎県	神奈川県	横浜市
調査方法	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	面接調査	自記式アンケート	自記式アンケート	面接調査
調査対象者	5,000名	17,955名	10,000名	6,000名	6,750名	3,000名
対象者の選択方法	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上75歳未満の 日本国籍を有する者)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出	長崎県内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	横浜市を除く県内の 住民基本台帳より 無作為抽出 (18歳以上75歳未満)	横浜市内の 住民基本台帳より 無作為抽出 (18歳以上75歳未満)
回答者数	1,583名 (回収率31.7%)	8,469名 (回収率 47.2%)	4,685名 (回収率46.9%)	2,045名 (回収率34.0%)	2,687名 (回収率39.8%)	1,263名 (回収率42.1%)
うち有効数	1,552名 (回収率31.0%)	8,223名 (回収率 45.8%)	4,685名	2,010名 (回収率33.5%)	2,257名 (回収率33.4%)	1,263名
過去1年以内で ギャンブル等依存が 疑われる者 (SOGS 5点以上) ※	1.3% (0.8~2.0%) (22名/1,500名)	2.2% (1.9~2.5%) (165名/7,985名)	0.8% (0.5~1.1%) (32名/4,685名)	2.1% (1.5~2.8%) (41名/2,010名)	0.8% (0.4~1.2%) (16名/2,257名)	0.5% (0.3~1.1%) (7名/1,263名)

※ %は年齢調整後の数値。人数は年齢調整前の実数

- *1 松下幸生, 新田千枝, 遠山朋海; 令和2年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」, 2021年
- *2 樋口進、松下幸生: 国内のギャンブル等依存に関する疫学調査(全国調査結果の中間とりまとめ) (https://kurihama.hosp.go.jp/about/pdf/info_20171004.pdf) (2022年3月18日アクセス)
- *3 長崎県: 令和2年度 長崎県にけるギャンブル等の問題に対する意識や行動傾向の調査 調査A 一般県民を対象とした「長崎県におけるギャンブル等の問題に対する意識や行動傾向の実態調査」 (<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2022/01/1641619443.pdf>) (2022年3月18日アクセス)
- *4 神奈川県: 県内のギャンブル等依存症の実態調査の速報について (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/nf5/prs/r3367209.html>) (2022年3月18日アクセス)
- *5 横浜市都市整備局: 横浜市民に対する娯楽と生活習慣に関する調査(調査結果の取りまとめ) https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/sogotyousei/IR/chousakekka.files/0004_20200409.pdf (2022年3月18日アクセス)

(3)調査票(次頁)

ID	
----	--

※このIDは、重複した回答がないかを確認するためのものであり、あなたの個人情報と紐づけたものではありません。

「ギャンブル等と健康に関する調査」調査票

◆◆◆ご記入にあたってのお願い◆◆◆

1. 封筒のあて名に記載されている方がご記入ください。
2. 質問をよく読んで、あてはまる番号に○（インターネット回答の場合は選択）をするか、数字を記入（インターネット回答の場合は入力）してください。
3. あなたの回答によって、次の質問が変わる項目がありますので、矢印や説明文に従って、質問項目を確認してください。
4. 「答えたくない質問」や「わからない質問」、「負担を感じる質問」には答えなくても大丈夫です。
5. 似た内容の質問もありますが、特段の説明がない場合は、すべてにお答えください。

紙の調査票に記入するか、インターネットで回答するか、いずれか1つをお選びください。

① 紙の調査票による回答：令和3年2月28日（日）までに

記入済みのこの調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご投函ください。

② インターネット回答：令和3年2月28日（日）23時59分までに

別紙の「インターネット回答のご案内」をご参照の上、パソコンやスマートフォンからご回答ください。

<調査実施機関>

大阪府こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課
〒558-0056 大阪府大阪市住吉区万代東3丁目1-46
ホームページ <http://kokoro-osaka.jp>



<調査委託業者・問い合わせ先>

（株）ジャパン・マーケティング・エージェンシー 大阪事務所
〒541-0054 大阪市中央区南本町1-3-15 ボンベイビル 7F
電話番号 06-6263-0141 <受付時間：平日 10時～12時、13時～17時>
FAX 06-6263-2282
担当：芦田（アシダ）／榎本（エノモト）

※最初に、あなた自身やご家族のことについて、質問します。

【問1】 あなた(お送りした封筒のあて名のご本人)の性別を教えてください。(○は1つ)

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

【問2】 あなたの年齢を教えてください。(□に数字を記入)

満

--	--	--

 歳

【問3】 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

1 結婚している	5 未婚(結婚したことがない)
2 内縁関係(配偶者のような関係)	6 別居中
3 死別した	7 答えたくない
4 離婚した	

【問4】 あなたは現在、誰と住んでいますか。(一緒に住んでいる方全員に○)

1 一人暮らし	8 祖父・祖母
2 配偶者	9 孫
3 6歳未満の子ども	10 配偶者の父・母
4 6歳以上の子ども	11 子どもの配偶者
5 父親	12 その他()
6 母親	13 答えたくない
7 兄弟姉妹	

【問5】 現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。(□に数字を記入)

--

 人 (一人暮らしの場合は、1人とお答えください)

【問6】 現在のあなたの職業を教えてください。(○は1つ)

1 自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	5 家事専業(専業主婦・専業主夫)
2 勤め(正社員・正職員)	6 無職(求職中、失業中、進路未定を含む)
3 勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	7 無職(退職、今後就業予定はない)
4 学生	8 その他()

【問7】 あなたの最終学歴を教えてください。(○は1つ)

1 中学校 卒業	6 大学 中退
2 高校・高専 中退	7 大学 卒業
3 高校・高専 卒業	8 大学院 中退
4 短大・専門学校 中退	9 大学院 修了
5 短大・専門学校 卒業	10 その他()

※【問8】は、【問6】で「1 自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)」「2 勤め(正社員・正職員)」「3 勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)」「8 その他」のいずれかに○をつけた方にお伺いします。

【問8】 あなたはどのような種類の仕事をしていますか。(○は1つ)

1	専門・技術職……………	(医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの)
2	管理職……………	(企業・官公庁における課長職以上、議員、経営者など)
3	事務職……………	(企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業など)
4	販売職……………	(小売・卸売店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールスなど)
5	サービス職……………	(理・美容師、料理人、ウェイター・ウェイトレス、ホームヘルパーなど)
6	生産現場・技能職…	(製品製造・組立、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など)
7	運輸・保安職……………	(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士、警察官、消防官、自衛官、警備員など)
8	農・林・漁業……………	(農作物生産、家畜飼養、森林保続培養、水産物養殖、漁獲など)
9	その他 具体的に→	()

【問9】 現在あなたは18歳以下のお子さんを子育て中ですか。(○は1つ)

1	いいえ	→	【問11へ】
2	はい	→	【問10へ】

※【問9】で「はい」と答えた方にお伺いします

【問10】 あなたは、子育てについて心配や負担感が強いですか。

最もあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。(○は1つ)

1	あてはまる
2	どちらかといえばあてはまる
3	どちらともいえない
4	どちらかといえばあてはまらない
5	あてはまらない

※【問11】はすべての方への質問です。

【問11】 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(○は1つ)

1	1万円以上～100万円未満	7	800万円以上～1,000万円未満
2	100万円以上～200万円未満	8	1,000万円以上～1,200万円未満
3	200万円以上～300万円未満	9	1,200万円以上～1,500万円未満
4	300万円以上～400万円未満	10	1,500万円以上
5	400万円以上～600万円未満	11	収入なし
6	600万円以上～800万円未満	12	わからない

※ここからは、ギャンブル等について質問します。

【問 12】 あなたはこれまでギャンブル等をしたことがありますか。

この調査で「ギャンブル等」とは、下の(ア)～(シ)のことです。(ア)～(シ)のギャンブル等について、今までに経験したもののすべての番号に○をつけてください。(○はタテにいくつでも)


【問 13】 前の【問 12】で、(ア)～(シ)で○をつけたギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。「1：過去1年間全くしていない、2：週1回未満、3：週1回以上」からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれヨコに○は1つ)

※【問 12】で「(ス) 上記のいずれもしたことはない」を選んだ方は、8ページ【問 38】へお進みください。

		【問 12】 今までに経験したことがあるギャンブル等についてあてはまる番号すべてに○	【問 13】 (ア)～(シ)で○をつけたギャンブル等について過去1年間の頻度		
			過去1年間全くしていない	週1回未満	週1回以上
—	例) トランプ	(例) ○	1	2	3
(ア)	パチンコ	(ア) 1	1	2	3
(イ)	パチスロ	(イ) 2	1	2	3
(ウ)	競馬	(ウ) 3	1	2	3
(エ)	競輪	(エ) 4	1	2	3
(オ)	競艇(ボートレース)	(オ) 5	1	2	3
(カ)	オートレース	(カ) 6	1	2	3
(キ)	宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)	(キ) 7	1	2	3
(ク)	サッカーくじ	(ク) 8	1	2	3
(ケ)	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	(ケ) 9	1	2	3
(コ)	インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇(ボートレース)、オートレースを除く)	(コ) 10	1	2	3
(サ)	海外のカジノ	(サ) 11	1	2	3
(シ)	その他のギャンブル()	(シ) 12	1	2	3
(ス)	上記の <u>いずれもしたことはない</u>	(ス) 13	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> (ス)を選んだ方のみ 8ページ【問 38】へ進む </div>		

【問 14】 【問 12】で、(ウ) 競馬、(エ) 競輪、(オ) 競艇、(カ) オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。競技ごとに、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

※【問 12】で(ウ)～(カ)を選ばなかった方は、【問 15】へお進みください。

	ギャンブル場 または、場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場/場外 と オンラインの両方
(ウ) 競馬	1	2	3
(エ) 競輪	1	2	3
(オ) 競艇(ボートレース)	1	2	3
(カ) オートレース	1	2	3

※【問 15】～【問 37】は、過去 1 年間にギャンブル等をしたかどうかに関わらず、これまでにギャンブル等をしたことがある方全員がお答えください。

【問 15】 過去 1 年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブル等はどれですか。

1 つ選んで○をつけてください。（○は 1 つ）

1 パチンコ	8 サッカーくじ
2 パチスロ	9 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
3 競馬	10 インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪、競艇(ボートレース)、オートレースを除く)
4 競輪	
5 競艇(ボートレース)	11 海外のカジノ
6 オートレース	12 その他のギャンブル()
7 宝くじ(ロト・ナンバーズ等も含む)	13 過去 1 年間はギャンブル等を全くしていない

【問 16】 過去 1 年間、1 か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。

勝ったお金は含めずにお答えください。（□に数字を記入）

※ 過去 1 年間はギャンブル等をしていない場合は 0 円と回答してください。

				万					円
--	--	--	--	---	--	--	--	--	---

【問 17】 初めてギャンブル等をしたのは何歳の時でしたか。（□に数字を記入）

		歳
--	--	---

【問 18】 あなたが、少なくとも月 1 回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をするようになったのは何歳でしたか。（□に数字を記入）

※ 月 1 回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をしたことがない場合は、□に×とご記入ください。

		歳
--	--	---

【問 19】 過去 1 年間に、自分のギャンブル等の経験について考える、あるいは将来のギャンブル等をするための計画をすることに多くの時間を費やす期間が 2 週間以上続いたことはありましたか。（○は 1 つ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

【問 20】 過去 1 年間に、ギャンブル等を止める、減らす、あるいは制限しようとしたことがありましたか。（○は 1 つ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

【問 21】 過去 1 年間に、どのくらいの時間や回数のギャンブル等をしたか、あるいはギャンブル等でいくら負けたかについて家族や友人、他の人に嘘をついたことはありましたか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

【問 22】 過去 1 年間で、ギャンブル等で負けた時、負けた分を取り戻すために、また別の日にギャンブル等をしたことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- 1 全くそのようなことをしたことはない 3 負けた時はたいていそうした
2 時々そうした(負けた回数の半分はしていない) 4 負けた時はいつもそうした

【問 23】 過去 1 年間に、実際はギャンブル等で負けたのに、勝っていると家族や友人、他の人に伝えたことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- 1 いいえ、一度もない 2 はい、でも負けた回数の半分もない
3 はい、たいていそうだった

【問 24】 過去 1 年間で、自分にギャンブル等の問題があると思ったことがありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

【問 25】 過去 1 年間で、意図していた以上にギャンブル等をしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

【問 26】 過去 1 年間で、あなたのギャンブル等についてまわりの人から非難されたことがありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

【問 27】 過去 1 年間で、自分のギャンブル等のやり方や、ギャンブル等によって生じたことについて罪悪感を感じたことがありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

【問 28】 過去 1 年間で、実際にはやめられないとわかっているにもかかわらず、ギャンブル等をやめたいと思ったことはありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

【問 29】 過去 1 年間で、ギャンブル等をしていることを配偶者や子ども、その他あなたにとって大事な人に知られないように、ギャンブル等の券や宝くじ、ギャンブル等に使うための資金などを隠したことがありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

【問 30】 過去 1 年間で、お金の使い方について、同居している人と口論になったことがありますか。
(○は 1 つ)

1	いいえ	→	【問 32 へ】
2	はい	→	【問 31 へ】

※ 【問 30】 で「はい」と答えた方にお伺いします

【問 31】 そのお金に関する口論の原因が、主にあなたのギャンブル等
だったことがありますか。(過去 1 年間に起こった口論) (○は 1 つ)

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

※ 【問 32】 は、【問 30】 で「いいえ」と答えた方と、【問 31】 に答えた方への質問です。

【問 32】 過去 1 年間に、誰かからお金を借りたのに、ギャンブル等のために返せなくなったことがありますか。(○は 1 つ)

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

【問 33】 過去 1 年間に、ギャンブル等のために、仕事や学業の時間を浪費したことがありますか。
(○は 1 つ)

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

【問 34】 過去 1 年間で、ギャンブル等のためか、ギャンブル等による借金を返すためにお金を借りた経験
がありますか。(○は 1 つ)

1	ある	→	【問 35 へ】
2	ない	→	7 ページ 【問 36 へ】

※ 【問 35】 は、【問 34】 で「ある」と答えた方への質問です。

【問 35】 過去 1 年間に、誰またはどこから借りましたか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれ○は 1 つ)

過去 1 年間に	はい	いいえ
(a) 家計から借りましたか	1	2
(b) 配偶者から借りましたか	1	2
(c) その他の親戚から借りましたか	1	2
(d) 銀行、ローン会社、信用組合等の金融機関、 サラ金などの貸金業者等から借りましたか	1	2
(e) クレジットカードで借りましたか	1	2
(f) 闇金融から借りましたか	1	2
(g) 株券、債券、保険を換金して借りましたか	1	2
(h) 自分または家族の財産を処分して借りましたか	1	2
(i) 当座預金口座から（不正な小切手を発行した）借りましたか	1	2

※【問 36】は、【問 34】で「ない」と答えた方と【問 35】に答えた方全員への質問です。

【問 36】 以下の 9 つの質問について、過去 1 年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を、
「0：全くない」～「3：ほとんどいつも」から 1 つ選んでください。（それぞれ○は 1 つ）

過去 1 年間で 	全くない	つきとぎ	たいていの場合	ほとんどいつも
① どのくらいの頻度で、失っても本当に大丈夫な金額以上のお金を賭(か)けましたか	0	1	2	3
② どのくらいの頻度で、同じだけの興奮の感覚を得るために、それまでよりも多くの金額をギャンブル等に費やさなければなりませんでしたが	0	1	2	3
③ どのくらいの頻度で、ギャンブル等で負けた金額を取り返そうと別の日にギャンブル等をしに戻りましたか	0	1	2	3
④ どのくらいの頻度で、ギャンブル等をするお金を得るために借金をしたり、物を売ったりしましたか	0	1	2	3
⑤ どのくらいの頻度で、自分がギャンブル等に関して問題を抱えているかもしれないと感じましたか	0	1	2	3
⑥ どのくらいの頻度で、あなたがその通りだと思うかどうかに関わらず、周囲の人々があなたがギャンブル等をするのを批判したり、あなたがギャンブル等の問題を抱えていると言ってきたりしましたか	0	1	2	3
⑦ どのくらいの頻度で、自身のギャンブル等のやり方や、ギャンブル等の結果として起こることについて、悪いとか申し訳ないと感じましたか	0	1	2	3
⑧ どのくらいの頻度で、ギャンブル等が健康問題を引き起こしましたか。これにはストレスや不安も含まれます	0	1	2	3
⑨ どのくらいの頻度で、ご自身のギャンブル等によって、あなたやご家庭に金銭的な問題が引き起こされましたか	0	1	2	3

【問 37】 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブル等のことで、だれか（どこか）に相談したことはありますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。（○はいくつでも）

1 家族や友人	6 民間の相談機関（無料電話相談、回復施設）
2 学校の先生や学生相談窓口	7 自助グループ
3 公的な相談機関 （市区町村や精神保健福祉センター（大阪府こころの健康総合センター・大阪市こころの健康センター・堺市こころの健康センター）、保健所等）	8 その他 （ ）
4 医療機関	9 だれ（どこ）にも相談したことはない
5 法律の専門家（弁護士、司法書士等）	

※ここからは全員への質問です。ギャンブル等をしたことがない方もお答えください。

【問 38】 次にあげる人の中に、ギャンブル等の問題がある（あった）人はいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。（○はいくつでも）

1 父親	6 子ども
2 母親	7 恋人・交際相手
3 兄弟姉妹	8 上記以外のあなたにとって大事な人
4 祖父・祖母	
5 配偶者（内縁関係を含む）	9 いない → 【問 40 へ】

【問 39】 あなたは、**【問 38】** で答えた人のギャンブル等の問題から、次のような影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

1 浪費、借金による経済的困難が生じた	7 脅しや言葉の暴力を受けた
2 借金の肩代わりをした	8 ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた
3 金品を盗まれた	9 子どもへの暴力や不適切な養育をしてしまった
4 殴る・蹴るなどの暴力を受けた	10 アルコール問題（飲酒運転を含む）が生じた
5 家庭不和・別居・離婚を経験した	11 あてはまるものはない
6 うつ状態になった	

※ **【問 40】** は、**【問 38】** で「いない」と答えた方と **【問 39】** に答えた方全員への質問です。

【問 40】 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者（家族や友人、同僚、交際相手など）がギャンブル等のことで困りごとを抱えたら、だれ（どこ）に相談しますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。（○はいくつでも）

1 家族や友人	6 民間の相談機関（無料電話相談、回復施設）
2 学校の先生や学生相談窓口	7 自助グループ
3 公的な相談機関 （市区町村や精神保健福祉センター（大阪府こころの健康総合センター・大阪市こころの健康センター・堺市こころの健康センター）、保健所等）	8 その他 （ ）
4 医療機関	9 だれ(どこ)にも相談しない
5 法律の専門家（弁護士、司法書士等）	

【問 41】 ギャンブル等依存症対策に関する、下記の①～③の仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。（それぞれ○は1つ）

	知って いる	知ら ない
① 本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み	1	2
② 本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇（ボートレース）・オートレースの入場が制限される仕組み	1	2
③ 本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み	1	2

【問 42】 以下の①～⑤に掲げる病気になったのは、「本人の責任である」と思いますか。

①～⑤について、「1：全くそう思わない」～「5：強くそう思う」から1つ選んでください。
(それぞれ○は1つ)

	全くそう思わない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
→					
① うつ病	1	2	3	4	5
② アルコール依存症	1	2	3	4	5
③ がん	1	2	3	4	5
④ ギャンブル等依存症	1	2	3	4	5
⑤ 糖尿病	1	2	3	4	5

※ここからは、あなたの心身の健康について質問します。

【問 43】 過去 30 日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1：いつも～5：全くない）を選んで○をつけてください。
(それぞれ○は1つ)

過去 30 日の間、	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
→					
① 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
② 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
③ そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
④ 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
⑤ 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
⑥ 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

【問 44】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(○は1つ)

1 ある	2 ない	3 答えたくない
------	------	----------

【問 45】 あなたは、これまでに自殺未遂をしたことがありますか。(○は1つ)

1 ある	2 ない	3 答えたくない
------	------	----------

※ここからは、飲酒・喫煙について質問します。

【問46】 あなたの喫煙（紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む）について、あてはまるものを1つ選んでください。（○は1つ）

1 吸ったことはない	2 以前吸っていたが現在はやめた	3 今も吸っている
------------	------------------	-----------

【問47】 あなたはアルコールが含まれる飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。（○は1つ）

1 全く飲まない	2 1か月に1回以下	3 1か月に2～4回
4 1週間に2～3回	5 1週間に4回以上	

【問48】 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。

下の「1：全く飲まない」～「6：10ドリンク以上」からあてはまる番号を1つ選んでください。（○は1つ）

※ ドリンク換算表を参考にお答えください。

※ ドリンク数の合計が小数の場合、小数点以下を四捨五入して回答してください。

1 全く飲まない
2 1～2ドリンク
3 3～4ドリンク
4 5～6ドリンク
5 7～9ドリンク
6 10ドリンク以上

ドリンク換算表		
お酒の種類	摂取量	ドリンク数
ビール・発泡酒	コップ1杯 (180ml)	0.7
	中瓶・ロング缶 (500ml)	2.0
	大瓶 (633ml)	2.5
	レギュラー缶 (350ml)	1.4
	中ジョッキ(320ml)	1.3
日本酒 (15%)	1合 (180ml)	2.2
焼酎 (20%) (25%)	1合 (180ml)	2.9
	1合 (180ml)	3.6
チューハイ (7%)	レギュラー缶 (350ml)	2.0
	ロング缶 (500ml)	2.8
	中ジョッキ(320ml)	1.8
ワイン (12%)	ワイングラス (120ml)	1.2
	フルボトル (750ml)	7.2
ウイスキー (40%)	シングル水割り (原酒で30ml)	1.0
	ダブル水割り (原酒で60ml)	2.0
	ボトル1本 (720ml)	23.0
カクテル類 (5%)	350ml 缶1本	1.4
	500ml 缶1本	2.0
梅酒 (13%)	1合 (180ml)	1.9

飲酒量のドリンク換算例

① ビール【レギュラー缶】2本と焼酎(20%)1合
 →1.4ドリンク×2本+2.9ドリンク×1合
 =5.7ドリンク → **6ドリンク**

② チューハイ【ロング缶】2本とワイングラス3杯
 →2.8ドリンク×2本+1.2ドリンク×3杯
 =9.2ドリンク → **9ドリンク**

【問49】 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。（○は1つ）

上の【ドリンク換算表】を参考にお答えください。

1 ない	2 1か月に1回未満	3 1か月に1回
4 1週間に1回	5 毎日あるいはほとんど毎日	

※【問 50】は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、あなたの行動の変化について質問します。

【問 50】 新型コロナウイルス感染拡大前（令和 2 年 1 月時点）と現在を比べて、

あなたのインターネットを使ったギャンブル等はどのように変化しましたか。最もあてはまる番号を 1 つ選んで○をつけてください。この質問では、オンライン（インターネット）で競馬、競輪、競艇（ポートレース）、オートレースの券を購入した場合も含まれます。（○は 1 つ）

インターネットを使ったギャンブル等を	
1	新たに始めた
2	する機会が増えた
3	する機会が減った
4	する機会に変化はない
5	したことがない

【問 51】 あなたが 18 歳までに経験したことがあるものすべてに○をつけてください。

（○はいくつでも）

1	心理的虐待を受けた	7	性的虐待を受けた
2	家庭内暴力（DV）を目撃した	8	両親の離婚
3	精神疾患がある人との同居	9	刑務所に入ったことがある人との同居
4	アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	10	学校でのいじめ被害
5	身体的虐待を受けた	11	あてはまるものはない
6	ネグレクト（養育の放棄）を受けた	12	答えたくない

以上で質問は終わりです。

記入もれはありませんか？

ご確認いただきましたら、同封の返信用封筒に入れて、令和 3 年 2 月 28 日（日）までにご投函ください。

※ 返信用封筒にはお名前や住所のご記入は必要ありません。

※ インターネットでご回答いただいた方は、紙の調査票のご返送は不要です。

最後までご協力いただき、ありがとうございました。

令和2年度実施
「ギャンブル等と健康に関する調査」報告書

発行日 令和4年3月

発行 大阪府こころの健康総合センター

〒558-0056 大阪市住吉区万代東 3-1-46

TEL 06-6691-2811 (代) FAX 06-6691-2814

<http://kokoro-osaka.jp/>